

幼児の教育

第五十二卷 第九號



特集
日本保育学会第六回大会研究発表

發行 日本幼稚園協會
發賣 フレーベル館

9

フ レ ー ベ ル 館 の 保 育 用 品

No. 41 幼 児 指 導 要 録
B 5 判、4 頁、 定 価 一 部 5 円

No. 42 幼 児 指 導 要 録 の 趣 旨 と
そ の 取 扱 い に つ い て
定 価 4 円

No. 45 保 育 日 誌
定 価 1 枚 2 円

No. 47 園 籍 簿
定 価 1 枚 2 円

No. 48 身 体 検 査 票
定 価 1 枚 2 円

No. 50 園 の た よ り
A 6 判 28 頁 定 価 15 円

No. 51 つ う え ん ブ ッ ク
定 価 15 円

No. 53 卒 園 臺 帳
B 5 判 定 価 1 枚 2 円

No. 55 保 育 料 袋
定 価 1 枚 2 円

No. 56 保 育 證 書 (A)

No. 57 同 (B)
A は B 4 判、B は B 5 判
定 価 A 7 円 B 5 円

No. 58 園 児 募 集 ポ ス タ ー (A)

No. 59 同 (B)

No. 60 同 (C)
定 価 ABC 各 20 円

No. 72 出 席 簿 (縦 型)
定 価 1 枚 2 円

No. 74 園 の た よ り 用 ゴ ム 印
欠 と 休 を あ ら た に 入 れ ま し た。
1 組 14 ケ 定 価 200 円

No. 75 綴 込 表 紙
B 5 判 何 で も 綴 り 込 め ま す。
定 価 50 円

No. 101 出 席 カ ー ド
表 紙 裏 に、身 体 検 査 表 と 月 別 出 欠 席 表
を 入 れ ま し た。
A 5 判 13 枚 (表 紙 共) 定 価 35 円

No. 103 出 席 カ ー ド 用 貼 紙
10 人 分 12 ケ 月 一 箱 定 価 200 円

No. 111 め り え (初 級)

No. 112 同 (上 級)
B 5 判 各 16 枚 定 価 各 35 円

No. 118 お さ い く 帳 (B)

No. 119 同 (A)
鼠 紙 10 枚、黒 紙 2 枚
(B) は B 5 判 定 価 32 円
(A) は A 4 判 定 価 40 円

No. 126 自 由 画 帖 (A)

No. 127 同 (B)

No. 128 同 (C)
C は 上 質 ざ ら 紙 30 枚
定 価 A 35 円 B 30 円 C 25 円

No. 131 折 紙 (特 製 5 寸) 定 価 50 円

No. 132 同 (# 4 寸) 定 価 40 円

No. 133 同 (並 製 5 寸) 定 価 35 円

No. 134 同 (# 4 寸) 定 価 25 円
以 上 い ず れ も 1 色 100 枚 包 の 値 段 で す。
色 の 種 類 は 16 色。(並 製 は 15 色)

No. 155 ま ん て ん く れ よ ん (12 色)
定 価 60 円

No. 156 同 (10 色) 定 価 50 円

No. 157 同 (8 色) 定 価 40 円

No. 158 お 道 具 箱 (木 製) 定 価 60 円

No. 159 同 (紙 製) 定 価 35 円

No. 160 鋏 (先 丸 鋏) 定 価 35 円

No. 168 た の し い お し ご と (No. 1)

No. 169 同 (No. 2)
定 価 各 45 円

No. 171 組 別 名 札 (桜 型)
両 面 色 紙 ば り、色 の 種 類 は 赤、黄、緑、
白、桃、藤、水 色 の 7 色 定 価 1 個 2 円

発 行 所 東 京 都 千 代 田 区 神 田 株 式 会 社
小 川 町 二 丁 目 五 番 地

フ レ ー ベ ル 館 振 替 口 座 東 京
一 九 六 四 〇 番

幼 児 の 教 育

第五十二卷

第九号

昭和二十八年九月

目 次

表 紙……………三 岸 節 子

— 特 集 —

日本保育学会第六回大会研究発表

(研究発表者氏名・順序不同)

日 本 女 子 大 学	{ 奥野あや子 前田 美和	西 南 学 院 短 期 大 学	高橋さやか
東 京 学 芸 大 学	稲 毛 卓	お茶の水女子大学	{ 平井 信義 千羽喜代子
愛 知 学 芸 大 学	種 崎 正徳		野田 幸江
一宮市浅井保育園	野崎とし子	日 本 女 子 大 学	{ 児 玉 省 岡野伊津子
名古屋市立保育短期大学	{ 甲斐 久生 渡辺紀久子		斎藤 愛子
江 東 橋 保 育 園	鈴木 とく	名古屋市立保育短期大学	{ 珠川 善子 白木喜美子
東 京 都 庁	秋田 美子		桜井 良子
愛 育 研 究 所	平井 信義	一宮市葉栗保育園	高島栄美子
大阪基督教短期大学	小木曾 光	愛知県立女子短期大学	江上 秀雄
保育医学研究会	深田 英朗	愛 育 研 究 所	竹田 俊雄
大阪学芸大学	小川 正通	頤 栄 短 期 大 学	西 本 脩
		榮 光 幼 稚 園	日名子太郎

シンポジウム

『幼児保育と準備教育』

日 本 女 子 大 学	村山 貞雄	音 羽 幼 稚 園	柿内 三郎
成 蹊 小 学 校	滑川 道夫	愛 育 研 究 所	平井 信義
お茶の水女子大学	周 郷 博		

編 集 主 幹 倉 橋 惣 三
協 力 委 員 牛 島 義 友
多 田 鉄 雄
編 集 委 員 西 山 浪 太 郎

及 川 ふ み 斎 藤 文 雄
波多野 完治 山 下 俊 郎
(五十音順)

発 行

日 本 幼 稚 園 協 会

日本保育學會第六回大會發表

一、幼稚園児の絵本に対する好み	日本女子大学	奥野美子	(5)
二、乳幼児の発達段階に伴う保育方法についての一考察	西南学院短期大学	高橋さやか	(9)
三、幼稚園の道徳教育	東京学芸大学	稲毛卓	(12)
四、幼稚園児の發育に及ぼす季節的影響	お茶の水女子大学	千羽喜代	(13)
五、知能検査としての指テスト (Finger Test) の検討	愛知学芸大学 一宮市浅井保育園	種橋正徳	(15)
六、遊戲におけるフラストレーションの表現	日本女子大学	岡崎とし	(20)
七、幼児のことば ―語彙の実態調査―	名古屋市立保育短期大学	甲斐久生	(24)
八、排便排尿の躰 (トイレット・トレーニング) の調査	名古屋市立保育短期大学 一宮市葉栗保育園	珠川榮誓	(30)
九、幼児の生活習慣の早期樹立について	江東橋保育園 東京都市研究所	鈴木木喜良	(37)

一〇、要求の心理からみた保育用品	愛知県立女子短期大学	江上 秀雄	(42)
一一、音 遊 び	大阪基督教短期大学	小木曾 光	(45)
一二、幼児の相談事例について	愛育研究所	竹田 俊雄	(47)
一三、年令別にみた乳歯ムシバ罹患程度	保育医学研究会	深田 英朗	(49)
一四、両親から見た理想の保育者 ——理想的保育者の資質に関する研究(一)——	頤栄短期大学	西 本 脩	(53)
一五、子供は両親に何を与えるか ——ボツサードの研究を中心として——	大阪学芸大学	小川 正道	(63)
一六、私立幼稚園の健康管理の一形態	栄光幼稚園	日名子 太郎	(67)

シンポジウム

「幼児保育と準備教育」

一、幼児教育のカリキュラムの立場から	日本女子大学	村山 貞雄	(74)
二、幼稚園の立場から	青羽幼稚園	柿内 三郎	(78)
三、小学校の立場から	成蹊小学校	滑川 道夫	(80)
四、児童学の立場から	愛育研究所	平井 信義	(80)
五、幼年教育の立場から	お茶の水女子大学	周 郷 博	(81)

記 録

日本保育学会記事

.....	(83)
-------	------

開 會 の 辞

倉 橋 惣 三

本日はかく多数会員その他遠路の方々の御来会を得まして、有りがとうございます。日本保育学会もおかげで第六回総会を迎えまして、愈々盛大におもむき、殊に、だん／＼と、「学会」の形をそなえて参りましたことを喜びます。これ偏に研究発表者諸氏の御研究の学的御努力と、聴講者諸君の学的御態度によるものでありまして、偏に全員の保育学への御熱心に基くことを特に感ずる次第であります。我国保育学の現状は、他の諸学にくらべまして、未だ必ずしも、学会としての充實を完了しているとはいえないかも知れませんが、その進歩は著しいものがあり、殊に保育實際家諸君の御精進によつて、理論と實際との連絡の密なるものがあり、学の名において、實際の苦心を侮り實際に忙しくして、学的研究の精を忘れるというよりも、他学会に往々見るところの弊に陥らないことは、堅実なる保育学会の進展として、好ましい路を辿りつゝあるものと喜びにたえません。理論を以て語り、實際を以て聴き、どこまでも幼児の生活を離れないで、進みたいものであります。我が日本の保育界のために、益々御尽力を願います。

尙、本日の総会の開催に当りまして、この立派な講堂と、各附属施設の自由な使用をお許し下された、日本女子大学々長大橋先生の御好意と、特に本日及準備のために多大の御尽力を下さいました、本学の上村、児玉両教授及び学生諸君の御好志に対して、心からお礼申し上げます。

繪本に對する五、六才兒の興味

日本女子大學

奥野あや子
前田美和

一、五・六才兒の繪本に對する興味がどこにあるかを追求すること
を私達の目標としました。

一、調査期日七月初旬から十月末日まで
一、調査園及び園児數

幼稚園	男兒數	女兒數
杉並区井草幼稚園	七〇名	七三名
本郷第一幼稚園	一五	一五
台東町幼稚園	八九	七二
福島県隣保館(保育園)	四二	四二
静岡県富士見幼稚園	五	二〇
静岡県今泉小学校一年	二五	四〇
家庭の五・六才兒	八一	六
小計	二五四名	二六八名
合計	五二二名	

二、調査材料

フレーベル館発行のキンダーブック、トツパンのおもちやの国、言葉の繪本、東京繪本発行の子供と動物、永見社発行の元氣な遊び、ひばり書房ののりもの、赤本と云われている三冊の繪本等を用い内容の面からは日常生活を画いている生活繪本、動物を描いた動物繪本、乗り物繪本、自然を描いたもの、社会事象、子供の遊び道具、おもちゃなどの画かれたもの、色彩の面からは赤本の様に印刷が悪くて色の濁っているもの、中間色を用い薄くすかした色彩で画かれているもの、鮮明に美しく原色を用いて描いてあるものの三方面から撰択しました。

三、調査方法

調査日に幼稚園で対象の幼兒を五名づゝのグループに分けて調査にあたつた。先ず幼兒に右の十冊の繪本を束にして並べて与え最初に表紙に對する興味がどこにあるかを見ようとしたのであるがこれは子供がどの繪本に一番最初にとびつくかによつて判定しようと思つた。

本名	田舎都会			
	男児	女児	男児	女児
おもちゃのくに	五・二二・三・〇%	二六・四・四・二・八%		
のりもの	四四・二・一〇・七	四四・六・七・二		
どうぶつ	一一・六	五・四・一〇・一		三・六
キンダーブック	二二・九	九・七	一・三	二〇・〇
げんきな遊び	九・一	九・七	三・一	八・六
ことごとどうぶつ	六・五	二二・〇	一・三	七・一
ことばのえほん	六・五	八・九	二二・六	二〇・〇

次の表の示す通り男児に於ては色彩よりも内容（特に乗物）の構図にひかれた様で、女児は内容よりも色彩の鮮明なものに強い反応を示した。それから二週間後を二度目の調査日とし、その間の十冊の絵本を対象の幼児に与えて自由に見せておいて絵本に親しませておいた。そして調査に同じ別の一組を用意し子供達がどの絵を最も熱心に取り上げて見ているかと云うことを観察した。又これを平行して、内容と色についての質問を試みた。どの絵本が一番好きか、どの色が好きかなどの質問である。

四、色について

色	田舎	都会
赤色	三六・三・二・一・一%	
黄色	一二・五・一六・五	
桃色	一〇・五・一三・七	
空色	九・八	九・四
青色	五・九	七・六
黒色	六・六	六・三
緑色	四・五	六・八

この結果からみると、幼児は先ず赤と黄の色に強い魅力を感じている。即ち表に示す様に赤（五七・四％）、黄色（三二・二％）、次いで桃色（二四・二％）、空色（一九・二％）などの様に明るく調和された色の配合を好み淡い色の感じを好む子供は全くない。それでこの表に出ている黒とか茶などの暗い色彩の好みは子供の好む構図、たとえば汽車とか汽船、飛行機、自転車、馬とか熊などにともなつて現われたものであると考えて良いと思う。

五、内容について

内容の点では他の絵本に比較して大勢の幼児が関心を示しているのは、表に示す様に、男児は乗物ごっこ。砂あそび。水あそびなどに関心を持つのに対し、女児は家庭生活の模倣特に母親の模倣である人形ごっこ。おままごと。お手伝ひ（かたたき、とりのえさ、お使ひなど）。その他切り紙、図画粘土細工、歌を歌つたりする構成遊戯に興味を持つ傾向がある。特に衣食住の問題に對し、興味を示すのに對して、男児は殆ど興味を示していない。

(一) 子供の生活を描いたもの

[illegible]

男女とをわず興味を示している。特に男児の方が多い。そしてそれは動物が単一に描かれているものより動物園とか、子供と動物がたのしげにたわむれているもの（たとえば、さるの電車、さる芝居熊のおどり、象、馬に子供が乗っている所）に興味を持ち、非行動的なものより行動的なものに興味を持つてると共に絵本を見て知つてゐる動物の名を云いながら指さし知らない動物の名を聞き出すと云つた風に経験の再認と新しい経験を求める傾向が見られる。

(二)動物絵本

ウ	ク	キ	ラ	熊	猪	犬	象	男	動	動物絵本	山の手	下町	田舎	田舎	
サ	ジ	リ	ク					女	物						
ギ	ラ	ン	ダ					と	園						
三・五	三・三	一〇・六	一〇・六	一〇・〇	一〇・六	一四・一	四・三	三・五九	五・二	男児	女児	男児	女児	男児	女児
四五	一一・二	七九	一九三	三三・七	一八・三	三〇・七	六・六	六・四	三・八	%	%	%	%	%	%
二・六	一〇・一	九・一	一六・三	二七・七	一九・一	三七・一	四・八	四・八	四・七	男児	女児	男児	女児	男児	女児
四・一	二・五	五・六	一三・九	三三・三	八・三	一六・七	三・五〇	四・一七	三・〇六	%	%	%	%	%	%
一・三	八・一	三・八	七・七	一九・三	一五・三	一五・六	二・八	三・九七	一・二八	男児	女児	男児	女児	男児	女児
一・一	一・五	〇・七	五・五	七・七	二・二	一・八	二・二	三・三	六・四	%	%	%	%	%	%

終戦後の傾向として、アメリカの汽車、スクーターなどに関心を示している。唯られつされた乗物の玩具よりも鉄橋の上を煙をはきながら進んで来る汽車、それに手をふる子供達、自動車、自転車、スクーター、トラツク、電車の交叉するロータリー、子供が三輪に乗つてお使いに行く構図などを好む。特に男児では「のりもの」以外の本を手にしなない子供が数人あつた。女児は男児に較べて少く六才児に於てはきわだつて減少している。

乗物絵本

乗物絵本		③ 都会田舎			
		山の手		下町	
		男児	女児	男児	女児
汽 車	七・五%	一九・三%	七・五%	六・三%	四・七%
電 車	六・四%	二七・三%	四・九%	三・九%	三・七%
バ ス	七・八%	三三・七%	四・七%	四・一%	三・八%
ジ ー プ	一・八%	二・三%	二・八%	一・六%	二・七%
ハ イ ヤー	三・二%	五・七%	一・〇%	六・四%	三・六%
ス クーター	九・四%	一・一%	三・三%	五・一%	三・七%
船	六・三%	一四・八%	五・九%	三・〇%	二・八%
自 転 車	九・四%	一〇・二%	一一・二%	一・五%	七・三%
飛行機	六・七%	一九・三%	五・八%	三・〇%	一・八%
モーターボート	三・四%	六・八%	三・九%	一・二%	—

他の内容と比べると子供の示す興味は少い。たのしい町の画かれているものについて山の手の子供は興味を示し、下町の子供は特に職業を表現している絵例えばチンドンヤ・オマワリサン、ソバヤ、写真屋の様なものを好む。そこに子供の日常生活環境がよく出ている因、自然を描いたもの

都会の子供より田舎の子供の方が多く興味を示し男児は虫、女児は花を好み、男児は花に殆ど関心がない。

因、社会的事象

社会絵本		④ 都会田舎			
		山の手		下町	
		男児	女児	男児	女児
ロータリー	一八・八%	二・六%	一・八%	一・三%	—
道	一・二%	二・二%	四・五%	—	—
職業	二・五%	一〇・五%	二・五%	一・六%	六・四%
たのしい町	三・五%	八・三%	一七・二%	一・二%	八・九%

因、童謡、童話、想像的なもの

男児に較べて女児の方が多少想像的な美しいものの感傷的なものをたのしんで見る様である。

以上内容と色の点を調査によつて具体的に考察しましたが、特異な例として級でも統卒的な立場にあり知能指数の多い一人の男児はおもちゃ、又はおもちゃによつて遊んでいる生活を描いたものには少しも興味がなく実物のおもちゃを手にとつて遊んで見なければちつとも面白くないと云つた子供があつた。

内容と色彩は切り離して考えることの出来るものではなく、両方がすぐれていて、はじめて幼児の関心をひくのである。特に六才児は一冊の絵本の中味がばらばらで断片的なものより一つの主題に統一されている連続した絵本を喜んでた。

こゝに具体的な考察を試みるために便宜上、内容と色彩を切り離した形を取り、私共の撰択した十冊の絵本による幼児の興味を引き出しましたが、これは全般的に云いことではないと思ひます。

乳幼児の発達段階に伴う

保育方法についての一考察

西南学院短期大学児童教育科

高 橋 さ や か

1、着眼の動機

保育方法が乳幼児の発達段階に伴つて考慮されなければならないことは論を俟たない。こゝに試みたい考察は乳幼児の発達段階に器質生成期と機能発達期が、ほゞ時期的に交互にあらわれることと、器質生成期には機械的反復訓練の形をとる保育方法が、機能発達期には、知能的構成的遊戯のごとき保育方法が、適切ではないかということについてである。この問題を取りあげた動機は、日頃接している幼稚園児の四―五才児のクラスが総体的に心身の状態が不安定であり、却つて三才児のクラスの方が著しく落着きのみえること、同様に保育部の子どもたちの中で、八、九カ月ごろ、一才八、九ヶ月頃、及び二才六ヶ月前後に、きわめて強情な傾向を見せる者が多いことの実と、新生児から満六才までの発達過程の一覽表を作成した時に、器質生成に関連する記事が多くあげられる年齢層と機能発達の様相が多くあげられる年齢層とがかなり明らかに区別できた

ことにあつた。

例えば、一年六ヶ月から二ケ年までの間には「頭の大きさは体の三分の一になり、大脳の大きさが新生児の二倍になる」ことがあげられるが、同じころ「言葉の意味を理解しはじめ」「影、不透明な像、不透明な像、透明像、挿画像などを弁別する」と言われるようになるのは、明らかに脳神経組織の充実――器質生成に伴う現象であると考えられる。これに比べ、次の二ケ年から二ケ年六ヶ月に至るころ「自由自在に歩ける」「いろいろな玩具に興味をもつ」「言葉が著しく増加する、しかし乱れ音、靴音、発音困難がまだのこつている」という状態を示すことは、器質的には前の時期に加えているものはまだあまりなく、練習の結果機能的に非常に発達してきたことをものがたるものであると見られる。(但し、この別は勿論厳密に言われることではなく、二カ年から二カ年六カ月の間に背骨の発達が目立つ、というような事実もあり、機能発達期には器質の生成がないというわけのものではない) 同じように四カ年までと五カ年ま

での段階をわけて見ることができ(表参照)大体に於て、器質生成期、機能発達期は交互にあらわれ、更に言うならば、これに加えて機能完成期ともよぶべき時期があつて、この機能完成期と次の器質生成期が若干重り合いつゝ存在するもののように考えられた。仮に一連の時期的交番をのべると生後一週間乃至十日までは、胎児期の完成期でこの期を含め一カ月までが新生児としての器質生成期であり、三カ月までが機能発達及び完成期である。次で三カ月から六カ月までが第二次的な器質生成期であり、一カ年まで機能発達期、一カ年六カ月までが機能完成期である。一カ年六カ月、ころから第三次的な器質生成期に入り、二カ年前後から器質生成をつゞけながら著しい機能的発達を示す。かんしやくをおこしたり、すねたりくやしがつたり強い恐怖や興奮を示したり、というような事実があげられるが情緒の分化発達が著しいのは、それだけ活発化した機能を表すものと考ええる。三カ年までが機能完成期であるが、脚の長さが急に發育すること乳歯が生え揃ふこと等、器質的にも幼児前期の完了を示す条件が揃う。幼児後期の器質生成及び整備の時期が四カ年まで、五カ年までが機能発達期、六カ年までが機能完成期であり幼児後期としての完成期であると共に児童期に入る為の器質生成がはじまろうとする時期になる、と言えるように思う。これはわかりきつたあたりまえの事実だといえそうかもしれないが、一般的にとり扱いの上からそれほど区別されていなかったのではないがそしてそのことが案外に乳幼児の発達途上に於る円滑性、安定性を欠かしてゐていたのではないか、というのが小やかな一考察の出発点になつたのである。

2、失敗と成功の事例

私はとり扱いの如何によつてあらわれるべき結果を、統計的に表明し得ないし、今後も私の立場としては、とり扱いを実験的に相当数の幼児に對して試み、結論を得る事はのぞみ難く思う。何故ならば、實際保育の集団的とり扱いの中で、機械的訓練と、構成的乃至知能的遊戯とを、全々別個のものとして課することは考え難く、そうすることは結局子どもたちに偏りのある生活をさせる結果になることを恐れないわけにはゆかない。又、今日の保育施設の生活では月齢別に幼児をグループに分つことも困難であり、厳密に言うて発達基準の月齢と、暦月齢は必ずしも一致しないのだが、このグループ別は一層困難なことになる。それにもかゝらず、なおこの問題をとりあげるのは、カリキュラム編成の際に、たゞ單に、行事或いは季節、或いは社会機構、人事等について、とりあげるべき單元を定め、年齢の幼いものには簡單平易に、長ずるに従つて複雑化した形に於て、教材をとりあげるようなやり方に加え、多少とも発達の時期的特質により多く添うべき考慮をする余地があると思うこと及びケース・ワークの立場から特に成功を期し得る場合が多いと考えられることに依る。

次にあげるのは僅かなテストケースであるにすぎないが、今後ともこのような形でならば更に詳しく問題を追求することも出来るし、とり扱いの実施とその成功を期し得られるものと思う。

Kは四才六カ月の女児であるが、I・Q一二〇を示し、言語動作も明瞭で可愛らしい。一才半上の兄が小児麻痺のため母は特に優秀

性を誇示しがちな傾向がある。ところがたゞ一つの欠点は、このKに夜驚症と、さして頻繁ではないが夜尿症があるということである。尤も夜尿症の方は、母親はまだ時々くらいはという意見であつたが、この子は二才半ころから非常におとなしくひとり遊びをし、母のいうことによく従ひ決して我まゝを言うことがなかつたのに、夜驚症が出はじめたころ（三才前後）から、時折思いがけないほど強情を言うことがあるようになった。しかし、相愛らず普通の時は、兄のことまで気をつかうよい子であるという状態であるが、保育者としてみれば、Kの強情は母の言うよりも頻度が高く、かつ根が深いものです／＼進行しそうに思われた。この夜驚症や強情の原因は、三才から四才、そして現在に至るまでの間に、あまりに賢い子として発達段階のそれ／＼の時期的特徴を無視してとり扱われたのによると思う。又Bは、五才五カ月になる男児だが、ひどく落着きがなくなつて来た。Bの母は所謂教育熱心な、とかくとり扱いも理づめでしがちな人だが、あまり自分が本などでよんだ標準發育に合致させようとして干渉が多すぎたようである。KにしてもBにしても、母の自慢や虚栄のため、歌を唄うことや字をかくこと、絵をかいたり積木をくみたり計算をすること、挨拶をすることなどを人前で度々くり返させられること、成人のたえまない注視のもとにおかれていることなどで、どちらかといえば、じつくりとしかも自由な自発的な心から追求されねばならないような問題について、却つて機械的反復が強いられ逆に、反復練習を要するような時に、それ以上の段階に早く到達することを強制するようなりあつかいをうけた事實は、母親との問答の間に十分証明されていたもの

であつた。これと反対の事例としてあげてよいと思われることは、私の關係している保育所の満四―五才のグループであるが、環境の条件に恵まれなため暦年齢が四―五才であつても、発達の程度は三才前後のものが八割を占めている。約十二名の子供達に対し専ら、反復話、体操を中心とするカリキュラムを実施したところ、環境に順応して、心身状況の調整を得ることが比較的短時間に得られたことである。これは意識的にそういうカリキュラムに依つたとり扱いをしてから日が浅いので確定的には言えないが、漠然と、いろ／＼なものをさせていた時に比べると、四日乃至一週間ばかりも早く、保育者になじんだといえるように思う。（従来ふつう二週間近くたつまで新入児は、その言動のどこかに、恐らくは彼自身の最も平常的な状態とは異なるものであらうところの様子を示したものであつたが、本年は、一週間から十日たつうちには、殆ど順応したものの如くである。但し非常に長くかゝる者についてはまだいえない。）前記Kについては、粘土遊びや自由画をさせるほか、簡単な作業――玉つなぎとかぬいとりとか、砂ふるいなどをあきらまでさせることにより、Bについては、一切干渉をやめて、子供自身の気のむくまゝに好む遊びを気のすむまでさせること（共に、前段階に於て十分になされなかつたことを補充する意味で）によつて、好結果が得られるのではないかと考えている。

3、結 語

以上、事例も乏しくかつ又、真に意図に即した条件を具えたものとして確度が高いか否か、些か不十分にすぎるのを遺憾とするが、

絶対的なものとしてでなく、あくまでとるべき多くの保育方法、手段の中の一つとならば、或る程度の価値をもつ試みと言えるものではないかと思う。はじめ私は、器質生成期の方がより不安定な時期であると考えていたが、実際には器質生成期はその前の機能完成期をうけて却つて子供に落着きのみえる時期であり、機能発達期こそ保育者が慎重を期さねばならない時期であること、機能発達期である六カ月——一ケ年、二ケ年前後、二ケ年六カ月——二ケ年八、九カ月、四ケ年——五ケ年の間は子供の心身の状態が非常に不安定であることを知り得るように思う。それは一面、器質生成期は或る程

度はつきり目に見えるので、自然に保育者の注意が行届くし、保育方法は集団保育では多少とも機械的な反復的になり易いから、丁度とり扱いと発達状態がマツチするが、機能発達期の場合はその逆になり易い事情も考えられる。乳幼児期に於ては、発達過程のあり方に必ずしも一律に論ぜられないことは、十分に理解しなければならぬことである。強いてこのことにこだわる必要もないと思うけれども、私としては、今後もお追求しつづけるに足る問題だと考えられるのである。

幼稚園の道德教育

東京学芸大学

稻 毛 卓

(原稿不提出)

幼児の發育の季節的變動について

(一) 幼稚園 児

お茶の水女子大学児童研究室

平井信義
千羽喜代子
野田幸江

小児の發育に及ぼす影響は種々なる条件があるが、季節が小児の發育に如何なる影響を及ぼしているであろうか。従来、學童については若干の研究があり、その一つとして、春即ち男児では4―6月は女児では3―5月には身長増加が著しく体重増加が思わしくないのに対し9―11月は体重も増加が非常によく、反対に身長増加が悪い——という結論が出されている。之に対しては勿論反対もあつたが、我が国ではさかんに引用され教科書などにさえしばしば載せられている程である。

乳児についても若干の研究があるが、之らの多くは季節的な影響を否定している。即ち、乳児期に於ては、余り強い季節的影響を受けない様だ、というのがその結論であるが、之については今日なお検討の余地があり、目下調査をすすめている。

しからば、乳児と學童との中間にある幼児期には、いかなる傾向が見られるであろうか。我が国に於ては、迫田マツ子、齋藤、辻兩氏中鉢二郎氏らの研究があるが、それらは學童期に認められた春

には身長が増し、秋には体重が増す、という傾向を幼児期にも認めているが學童期ほど顯著ではないといつてゐる。即ち、乳児期と學童期の中間的な傾向を認めている。

茲に我々は、特に幼稚園児を対象として、その發育に及ぼす影響をみたのであるが、今回は、その整理のみに了つた。目下保育所児との比較や、家庭児との比較について調査中であるが、更には月間發育量の個人的差異——即ち、季節的影響を受ける子供と受けない子供との類型を求めようと試みたいと思つてゐる。

(研究方法)

対象としては、都内某幼稚園2箇所の協力を得て、昭和25年度即ち昭和25年4月より、昭和27年3月までの2年間、男女合計一七八名(内訳は、五才児一一五名、四才児五三名男女略同数)について身長、体重を毎月計測した値を整理したものである。但し8月は夏休みのため計測値がない。

研究方法としては、対象児数も少く、計測に当つては当該幼稚園の先生に依頼したから若干の誤差も免れ得ず、従つてこゝに表れた結果をもつて全体を推すことは危険であるので、目下更に調査をすすめて居るが、茲に中間報告の形で發表した次第である。

(研究成績)

先づ身長の發育であるが、五才児は男女とも月を逐うて順調に發育している。これを3ヶ月区分4期に分けて検討すると、男女とも十、十二月が最もよく、一、二月が最も悪い。次に四才児であるが、四月から七月までの發育は非常に悪い。身長が下降するという事は計測に誤謬のあることも考えなくてはならないが、いづれにせよこの間の發育が悪いことは言えると思う。しかしながらその後夏休みの間の發育は、春に於ける發育不振を一挙にして取戻した如きよい發育振りを示しておる。ところが9月になつて幼稚園が始まると再び發育は徐々となり、冬即ち一、二月に及んでいる。

以上、五才児の身長は秋に増加がよく冬にはやゝ増加が思わしくないが各期とも順調な發育を示しているといえよう。ところが四才児は夏休みを除いては發育が思わしくなく、これが如何なる原因によつて起るかについては、今後更に検討しなければならぬことである。他とも比較検討して次回に發表する予定であるが、これを以て四才児の幼稚園生活が荷重であるというのは早計であらう。

体重の發育は、四、五月の發育が各年令男女とも思わしくない点については注目する必要がある。特に五月は我々小児科医の立場からは、いろいろの問題を持ち込まれることの多い月である。しかし、

その後六、七月と稍挽回して夏休みを迎えている。問題はこの夏休みで、五才児、四才児ともに体重増加は思わしくなく、五才児ではむしろ減少している様である。ところが九月から十一月乃至十二月の發育は誠によい。各年令、男女ともぐんぐんと太つて来ている。その後一、二月はむしろ發育がよくない。殆どその間は停止した様な状態となつてゐる。

以上のことから、体重の發育は先づ五月に低下する。その意味は新入園や新しいクラス構成、その他で先生、子供ともども影響を受けるのではないかとし、その後七月まで上昇の傾向があるが充分ではない。そして夏休みの間は更に發育が悪い。その意味は、高温、高湿環境による身体疲労、食慾不振、病氣などが上げられようし、それに反して子供の活動の過剰も考えられる。秋の發育は素晴らしい。身長も發育とも考え合わせ秋の健康保育を最も充実したものにしたい。秋は冬の準備期でもあるからである。そして冬の沈滞した發育に耐えたい。

次にどんな子供が季節の影響を強く受けどんな子供が受けないか之らについて整理を試みたが、今日のところ、思う様に、その型が出て来ない。私共臨床にたづさわつてゐる者としては、先に述べた平均値よりも、個々の子供の型を知つて、その型に沿つて指導を行いたいのであるが、今回は尙充分に検討し得なかつたので、次回にゆづりたいと思う。

發育ということは子供の中心課題であるが今日尙不明の点が沢山ある、發育の中心課題としては栄養、養護、生活などもあるが内分泌学的な諸問題も残されている。今後研究をつづけていくが、多く

の御援助をお願いする次第である。

本研究に当つては、終始御指導を賜つた愛育研究所長齋藤文雄博士、並びに我々の研究に御協力下さつた、一番町幼稚園徳久孝先生

はじめ諸先生、常盤幼稚園麦倉先生はじめ諸先生に、この壇上を拝借して厚く御礼申し上げます

知能検査としての指テストの検討

愛知学芸大学
一宮市浅野保育園

種 橋 正 徳
野 崎 と し 子

(他二名)

研究の動機及目的

現在までの知能テストは、その殆どが、絵、文字、文章、数などを用いている。然しこれらに比較的接する機会のない人々にとつては處々にして不備な点があるものと考えられる。

九州大学精神科中教授は、その点に関して知能は絶対環境の産物であり、又知能は大脳皮質の参与する生物の精神能力で、物と物との差の識別の際に仍くような能力であると云う立場より、特に小児

期の知能テストには、大脳皮質の機能検査時に大脳の運動中枢及び感覚中枢の発育を示すようなテスト方法が最も適当でないかと考えたの十種類の指及び前肢の運動からなる方法を推奨している。

又保育者にとつては、時間と道具と、相当高度な技術を必要とするため、現在の知能テストは、二の足を踏むと云われているが、この点についても指テストは、何等の問題はないと思われる。故に本テストを実用化するためにこの研究を始めたものである。目的として、(1)本テストと現行知能テスト(鈴木ビネー式を選ぶ)との相関

- (2) 本テスト得点より知能年令を定めることが可能か。
 (3) 本テストに不備の点はないか、
 の三点である。

研究 期 間

昭和二十七年九月五日より昭和二十八年二月十二日までの五ヶ月間に亘る。

研 究 対 象

現在保育園に通園中の五、六才児で第一表に示されたIQの分布表の如く大体普通児である。その内訳は、
 名古屋市立保育園三ヶ所 七三名
 一宮市立保育園 一ヶ所 一九名
 鳴海町私立保育園一ヶ所 一〇名
 で、年令別、性別に分けると、

第 一 表

IQ(鈴木ビネー)	人数
50~79	10
80~89	11
90~99	10
100~109	30
110~119	27
120~129	8
130~139	5
140~149	1
計	102

五才男児一三名 六才男児一一名
 五才女児二一名 六才女児三七名
 の計一〇二名である。

研究 方 法

指テストは、十問からなり次の如きものである。

第一問、前膊の廻転、手と前膊とを一直線になし指を伸し、少し小指を内側に入れ他の指を運の若葉のようにつばめ、前膊を早く廻転する。

第二問、指の開閉、全指をしつかり握り、またよく開く連続運動。

第三問、指二本二本、両手の指をよく伸し、拇指を除く四本の指を互につけ、中指と薬指の間だけをはずす。

第四問、きつね。

第五問、うさぎ又はからす、両手の背を上になかさぬ、小指と小指をかけ次に人差指と人差指をかける。

第六問、八つかぞえ片手の拇指で人差指から順次小指に向つて各指先に拇指を振れ乍ら一から四まで数え、次にもう一度小指を五と云い乍ら数えて、逆にもどり八つ目にもとの人差指にかえる。

第七問、右手右耳、左手左耳。

第八問、右手左耳、左手右耳。

第九問、めがね又はいづつ、先ず両手できつねを作り、よく伸した人差指と小指を向いあわせに重ね、中指と薬指を一緒にのばし、拇指にてその側の人差指の下、或は上にある反対側の中指と薬指をすくい、次に他の側も拇指も同様の動作をして対象形のいづつを作る。

第二表

[illegible]

第三表

問題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5才	2.89	2.89	0.32	2.48	1.98	1.57	2.53	2.13	1.22	1.29
6才	2.97	2.96	0.63	2.88	2.34	1.81	2.90	2.40	1.40	1.59
難易度	1	2	10	4	6	7	3	5	9	8

第十問、さくろ、両手を手の関節で右手を上にして上下に交叉せしめ、両手の背を併せて四つの指を組む、次に時計の方向に廻転し掌が横にむいたところで、右手関節を時計と反対の方向にまわし、左右の軸の周囲に廻転して胸の前で両拇指が上になり、他の四指が掌の中で交叉してさくろの形をつくる。

以上十問であるが、これを個別的に行い同時に並行して鈴木ビネー法による知能テストを施行し、最初に被検者に向つて、「これから先生と色々のものを作りましょう。先生のするのを見て、はいしてごらんと云つたらして頂戴ね。」と指示し、各問題で行結つたときはもう一度よくみてごらんと云う言葉を使用した。

評価は第二表を基準として用い、実施に際し特に寒い時は、被検者の手を温めさせてから行つた。

結果

(1)各問題の五、六才児の平均得点は第三表の如くである。この結果より問題の難易順は1 2 10 4 6 7 3 5 9 8となり第三問が悪いのは、一応考慮するべき点が残されていると

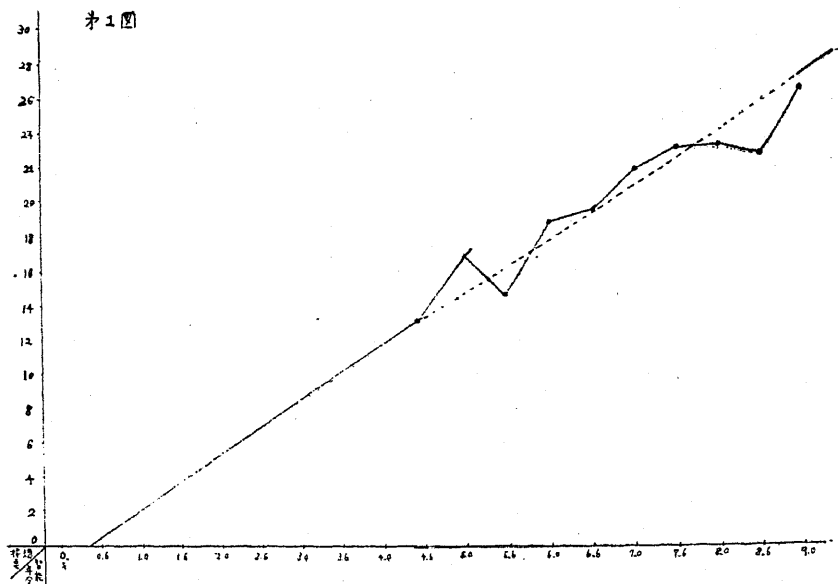
第四表

本テスト 総点	知能年令	本テスト 総点	知能年令
0点		15点	4.11~5.2
1	0.6~0.9	16	5.3~5.5
2	0.10~1.1	17	5.6~5.9
3	1.2~1.5	18	5.10~6.1
4	1.6~1.8	19	6.2~6.4
5	1.9~2.0	20	6.5~6.8
6	2.1~2.4	21	6.9~7.0
7	2.5~2.8	22	7.1~7.4
8	2.9~2.11	23	7.5~7.8
9	3.0~3.3	24	7.9~7.11
10	3.4~3.7	25	8.0~8.3
11	3.8~3.8	26	8.4~8.7
12	3.11~4.2	27	8.8~8.11
13	4.3~4.6	28	9.0~9.3
14	4.7~4.10		

思う。大体難易の程度に従つて問題を並べることは、被検者の負担を軽くし、テスト施行上有意義ではなからうかと思ひ、中教授原案より順序を変えて、1 2 4 7 8 5 6 9 10 3とする方が適當と考えられる。

(2)本テスト総点と鈴木ビネーテストによる知能年令との相関係数は、 0.81 (五%の信頼限界 0.72 ・ 0.86)の高度の正の相関を示し、この事は最もよく標準化されている鈴木ビネーテストとの高い一致度を示すと思われる。この事から本テスト結果を、その個人の知的能力とみなしても良いと考えられる。

(3)第一図は、各知能年令児の本テスト総得点平均をグラフにしたもので、可成きれいな上昇曲線を描き、これから回帰直線を求める



(図中点線) グラフより逆に本テスト得点と知能年令との關係を示したのが第四表である。

(4) 本テストに於ける男女の差の有無については、t検定により平均値の差の有意性を検定、その結果五才児に於ても、六才児に於ても有意の差がないと云うことになり、結局男女の差は考えに入れる必要がないと考えられる。

結 論

以上の結果より本テストは、幼児の個別又は集團知能検査として充分実用価値を有すると同時に、ビネーテストの相關による妥当性も他の幼児テストに比して劣らぬものと云うことが出来る。實際に際しても短時間で可能であり、又なんら器具や用紙を必要としないで、どこでも随時に施行出来ることは、保育に従事する保母の行うテストとして適していると思われる。又特に精神薄弱児や、環境不良児など、現在までのテストに応々にして不利であつた児童達にも、充分その目的を達することが出来ると思えられる。以上は大体の研究結果であるが、今後更に本テストをよりよきものとするため次の方面について今後も研究を進めたいと思う。

(一) 今回の研究については対象としなかつた、精神薄弱児、環境不良児に対して實際に有効か否か。

(二) 二、三、四才児にも同様方法にて施行し、本テストの標準化を今一般と正確なものとすること。

(三) 知能とは別に指先の訓練により本テストの得点を左右するか否か。

(四) 問題の良否及問題の数の適否及施行方法の改善について。

遊戯におけるフラストレーションの表現

日本女子大学

児 玉 省
岡 野 伊 津 子
齊 藤 愛 子

ごつこ性の遊びは一種の空想遊びであつて子供は自分の環境をこの遊びの中に表現するのみならず、子供の必要、感情、動機を表現すると考えられる。こゝに子供が平生抑えている欲求、感情、態度がしばしば無意識の中に出てくる可能性があり要求阻止即ちフラストレーションが、この種の遊戯の中に表現される可能性があると考

えられるのである。この仮定を実験にうつしてみたのがこの研究である。この研究の一部分は応用心理学会で発表した。これはアメリカでもハーバート大学の児童発達研究所に於いて、ロバートシアース教授がこの兩三年来研究中のもので、ワン・ウェイ・スクリーンや自動録音機等の完全な設備を以てこれを実施しているが、私達の研究はそうした設備をもたず、もっぱら二人の検査者の手により一人は検査を他方は記録をとる方法をとつた。

研究は昭和二十六年五月に開始した。

実験装置は縦八〇糎、横一一九糎、高さ一五糎の住家の模型即ち応接間、食堂、寢室、子供室とそれに玄関、台所、風呂場のついた

四間の約二十六坪の中流階級の住宅を想定して作り上げ、周辺は壁のように区切りをして、屋根なしの上から見下せる様にしたものである。なお、この模型の見本は、田辺氏の「新時代の住宅図集」の中のものを参考とした。

この実験場面には、玄関―下駄箱。応接間―テーブル、椅子、三角棚、額。寢室―タンス、机、スタンド、鏡、寝具。食堂―食卓、食器棚、食器、時計、ラヂオ、電話。子供室―タンス、机、本棚、ベツト。お手洗―便器。台所―流し、冷蔵庫調理道具。風呂場―風呂桶、すのこ、洗面器、バケツ。テラス―椅子、テーブル。などとそれらの部屋の雰囲気を出す小さな玩具をそなえ、砂場、乳母車紙、クレオンもそなえて子供が自由に遊ぶ様にした。又この家の住人として、父と母、少年、少女Ⅰ、少女Ⅱ、赤ちゃんの計六個の人形と、犬の玩具をおいた。

対象とした子供は、主として四・五才の子供、約三十名で、日本女子大学児童研究所附近の子供と、附属幼稚園の子供である。

実験は静かな、刺戟の少ない室を用いた。こゝに連れて来た子供に、この設備が家である事を納得させ、人形は一々被験者の家族にあてはめて説明し、人形でも家具でも適当に好きな様に、操作してよい事を伝えあきるまで自由に遊ばせる事にした。

記録のためには、実験者の一人が子供の行動、質問、言語を被験者に知られない様に時間を記入し乍ら記録し、他の一人は被験者の話しかけに会つちをうち乍ら前もつて準備した平面図に子供の行動を線であらわした。

尚、実験は大体一人に二回づつ行つたが三回づつのものも数名いる。

子供は最初この場面に接すると、非常な好奇心を以てあらゆるものを取り上げたり、質問したりするなど、探求をはじめの様である。そして一通り好奇心的探求行動が終ると今度は特に人形をとり上げて、人形に色々の活動を演じさせる。時には自分を人形の一つにしている事もあり、又自分は人形にならず人形をあやつる存在としてゐる事もありその両方の役割りを演じてゐる事もある。又私達はこの実験の前後に家庭訪問をして、調査用紙及び面接により、家庭のしつけの方針や状態を聞きまたひそかに観察をして、その実際のしつけに関する情報を得た。こうして得た知識と、被験者から聞いたことを一緒にして考察すると子供が家庭に於て示している行動とまた同じ子供が、実験の遊戯場面に於て示した人形をあやつる行動との間に、次の表に於て示すような関係が存在するのではないかと推察せられるのである。この実験家庭に於ける行動と実験場面の行動の連関は表では数字を用いて示した。上欄下欄の同一数字が

関連性を示すものである。

例Ⅰ 被験者 男 5才4ヶ月

家族 父(33才大学卒) 母(33才高女卒)

兄(10才) 弟(8ヶ月) 叔母(23才)

遊戯場面に現われた行動		家庭に於ける場面	
①	●父を一番下におきその上に他の人形全部を重ねる	②●兄は本人をいじめるのではない方がよい。	
	●父と兄を喧嘩させ父を負けさせる。		
	●父の肩の上と顔の上に犬がのる。	①●父は子供をあまり叱らず、一緒に外出する事も遊ぶ事も多い。	
	②●兄の上に車をのせてひく	②●本人は兄からいぢめられる	
	●兄の顔の上に犬をのせる		
②	●兄の足を玄関の戸の穴に入れる。	②●家庭訪問で聞き出す	
	③●犬が母をふみつける。	①●父は夜帰りがおそく酔つて来る事が度々で帰宅せぬ事もある。	
④	●母が赤ちやんを冷蔵庫の中に入れる。	①●父は母と姑達との間がうまく行かなかつた時積極的に母を助けなかつた。	
	⑤●風呂の中に犬を入れて蓋をして上に人形全部をのせる。		

② ●兄は反抗性強く、利己的で現在地方の特種学校にいる	④ ●本人は弟がいないと母に甘えようとする。
④③ ●弟は生後八ヶ月でいつも母にだかれたりおんぶしたりしている。	⑤ ●本人は犬をこわがる。

父人形をいじめるのは、父に対する反感を暗示し、兄人形をいじめるのは兄に対する反抗や反感を暗示していると思われる。又この子供は母親の弟に対する態度に明らかに嫉妬をもっているらしくその表現が赤ちやんを冷蔵庫の中に入れさせ、犬に母をふみつけさせていると考えられる。又犬に対する恐怖からか、犬を風呂桶の中にとち込め様としている。

例Ⅱ 被験者 女 5才2ヶ月

家族 父(36才 高校卒) 母(30才高女卒)

兄(6才) 弟(8才)

遊戯場面に現われた行動	家庭に於ける場面
① ●一回目二回目を通じて弟人形を使用しない。	① ●本人より聴取
② ●兄は、一回目には全く使用調査用紙	① ●弟とは遊ばない。

せず、二回目に皆の食後に始めて使用する。

③ ●遊戯中は無中になつて長時間興味ありげに無言で行動する。

②① ●兄弟よりも近所の友とよく遊ぶ。	① ●弟が生れた時当人を女中につけたがひどく嫌がつた。
③ ●一人で屋内で遊ぶのが好き針と糸で長時間遊んでいる	① ●弟の出生後、田舎にあずけたが、その時から家に帰ろうとしなかつた。母が迎えに行つた時顔をそむけた。
① ●弟とはあまり遊ばない。	① ●弟の出生後、田舎にあずけたが、その時から家に帰ろうとしなかつた。母が迎えに行つた時顔をそむけた。
③ ●幼稚園では一人でいる事が多く友達がない。	① ●弟が生れた時当人を女中につけたがひどく嫌がつた。

この場合も表の上段と下段とを同一番号で結んだ様な関係が想像出来、弟人形を一度もとり上げない行動は、この子供が弟の出生によつて母をうばわれたという嫉妬の感情がそうさせて居り、これと関連して母にも反感をもつていて考えられる。この実験調査を通して本人は内向性の性格であるが、弟への嫉妬がこの子供の性格を全面的に歪曲させているか、或はその両方であるかが考えられる。

又、兄人形の使用回数が極めて少なかったのは兄からよくいじめられる為に好ましくない感情をもっている事を暗示している。即ちフラストレーションが、消極的な進取性行動としてあらわされているものと考えられる。この研究の結論をのべると、

1、遊戯場面に於ける進取性行動が子供のフラストレーションにもとづく行動である可能性が充分にある。

2、けれども或進取性行動はこの研究だけで言うと、必ずしもフラストレーションにもとづいてると断定しえないものがある。

3、しかし、その進取性行動がフラストレーションに関係ないにしても、家庭のしつけの反映であると信じられる理由がある。ことに家庭が全然しつけらしいものを与えず、子供が自制心をもたず家庭の内外で我物顔にふるまっている行動は遊戯場面にはつきりとあらわれている。

4、又フラストレーションのあらわれ方は必ずしもいちじるしい進取的形式をとらず退嬰的活動或は消極的進取性行動、前述例の場合見られるように自分が敵意、反感をもつ兄弟人形を全然とり上げない形式をもつて表現されているのが見られる。

5、又これらの不適応現象の表現は設定した遊戯活動の全部にわたつて表現される可能性もあろうが実験に於ては極小部分にのみあらわれている。この事は日常生活にもフラストレーションが小部分にあらわれている場合と相応するものである。

6、フラストレーションの原因となつた人物をあらわす人形については、大体それが何をあらわすかを推定出来た。けれども時によると現実にそくせず、想像の対象を持出す可能性が考えられる。

7、この実験を更に確認するには、子供の家庭の現場でくわしく観察し、両親の意見行動についてもつとくわしく知る必要がある。

8、しかし全般として云うとこの実験でとつた方法は子供の不適応現象を検出するのになり有効である。即ち親のいう所、子供の云う所などからは想像又は観察出来ない事をこの実験は或場合ばかりしていると思う。

なお、遊戯場面にあらわれた行動を分析すると大体次の様になる。

一、人形に対して

1、好意的……父人形に子供人形をだかせる。父母人形にお茶を出す。子供人形同志肩をくませる。赤ちゃん人形を静かにねかせる等。回数—16回 全行動の0.3%

2、非好意的

i、無視……父人形だけいつまでも風呂の中におく。兄弟人形を全然使用しない。仲間はづれにする等。回数—8回 0.3%

ii、進取性……父人形を風呂に入れ蓋をする。兄人形と父人形と喧嘩させ、父を負けさせる顔に砂をかける。母人形に他の人形を叱らせる。赤ちゃん人形を冷蔵庫に入れる等。回数—32回1.2%

二、設備器具に対して

1、進取性、破壊性……クレオン、スプーンを折る。投げる等。回数—8回 6.3%

2、好奇心的、遊戯的……設備器具への関心（実験者に質問する取り上げてみるなど）動物への関心。遊戯的（砂をいじる。風呂バケツ、車などに砂を入れる等。回数—11回 4.3%

3、美的：家具を細く観察する。不足破損を指摘する。絵をかく等。回数62回 2.4%

4、身だしなみの：……風呂に入る。更衣、服装をなおす等。回数191回 9.3%

幼児のことば

5、生活的・美的：食事、掃除、洗濯、寝る、便所、手伝い、会話、あいさつ、勉強、読書等。回数109回 41.4%

右は10例の行動を分析分類したものを参考としたものである。

名古屋市立保育短期大学

甲斐久生
渡邊紀久子

一、目的

幼児の言語生活の実態を調査して、幼児の言語発達や言語の習得状況を知り併せて、日常のことばづかいや随り易い言語の欠陥などを洞察し、正しい言語環境の在り方や幼児の心理的発達に即してことばの補導も考えて行き度いと思う。第一回の実態調査は保育園に於ける知能普通児を調査対象としたものである。

二、調査の方法と対象

午前九時より正午までの自由あそびの時に話す三十分の言葉を精

密に観察記録し、それを基として結果をまとめた。記録を取る日はあそびが自由に出来る晴天の日に行い子供が動き廻っている後を目立たないようにしてつけて廻った。記録の期間は一昨年の十月から昨年の二月迄でこの調査は大体昨年の七月までにまとめたものの報告である。調査にあたっては同一語をくり返し使用する場合同一語を除いて異つた語だけを計算した。対象児は満三、四、五、六才の名古屋の保育園々児で、三才児約二十名、四才児約二十名、五才児三十名、六才児三十名、計約百名である。ここに掲げてある数字は、第二表、第五表をのぞく他はすべて言葉の実数を示すものである。

第一表

分類	年令		3才児		4才児		5才児		6才児	
	男女別		(3.8—3.11)		(4.0—4.11)		(5.0—5.11)		(6.0—6.11)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
語 い 量	一ケ年保 育園児		301.0	330.7	325.6	363.6	412.9	368.3	361.8	480.0
	二ケ年保 育園児		—	—	780.3	403.5	686.0	460.0	574.0	602.6
	三ケ年保 育園児		—	—	—	—	660.0	562.0	679.8	776.5
	平 均		304.0	330.7	462.0	384.9	534.2	419.3	568.2	557.3
名 詞	一ケ年保 育園児		58.5 (21.3%)	47.8 (14.6%)	49.0 (15.4%)	65.3 (18.7%)	80.1 (19.9%)	55.2 (14.6%)	55.2 (16.0%)	89.6 (19.5%)
	二ケ年保 育園児		—	—	130.4 (16.5%)	83.5 (19.4%)	92.8 (13.7%)	62.9 (15.8%)	81.5 (14.8%)	97.7 (16.6%)
	三ケ年保 育園児		—	—	—	—	135.3 (20.5%)	87.1 (15.5%)	105.6 (15.4%)	101.2 (13.1%)
	平 均		58.5 (21.3%)	47.8 (14.6%)	73.4 (15.7%)	70.8 (18.9%)	77.6 (17.2%)	60.9 (15.1%)	89.4 (15.8%)	89.3 (17.7%)
助 詞	使用され た助詞		62.3 (20.5%)	54.3 (16.4%)	79.7 (14.5%)	70.3 (18.3%)	129.8 (22.1%)	91.3 (19.7%)	131.4 (18.8%)	131.0 (21.1%)
	ぬけた助 詞		19.0	18.5	21.8	27.3	27.5	31.3	34.0	35.6

三、調査項目

1、語い量

2、名詞の量とその内容

3、使用された助詞、並にぬけた助詞の量とその内容

4、文について

四、調査の結果

満三才から満六才までの幼児の使用する語い量を調査した結果を表示すると第一表のようになる。これによると語い量の増し方は各年令における性差が著しく、男児では四才が語い発達の著しいあゆみをみせているが、女児は四才には男のような増加の傾向はみれず六才になつて急激に増加している。これらの場合各年令毎に可なり個人差があり、勿論地域、環境などによつても異なるであろうから、一概に断定することは出来ないと思うが大体の傾向はうかがうことが出来ると思う。

次に入園年数別調査によると、年数を重ねるに従つて男女とも次第に語い量の増加の傾向が現れてくる。殊に入園後二ケ年児の語い習得はめざましく、四才の男児では一ケ年から二ケ年の間に、二倍の増加を示している。これは園という環境的条件が言語の発達を促進したものと思われる。五才、六才の男児も同じく二ケ年までの間に一ケ年児の一、五倍の増加がみられる。それ以後はあまり差はみられない。つまり新しい環境の中に入つた入園後の一年間が語いの習得率が極めて旺盛であることがうかがえる。

以上は幼児の習得した語い量の増加をみたものであるが、次に名

詞の量をみると文献による名詞の量とこの調査による名詞の量との比較では、前者の方が著しく多くなっている。この大きな相違は動詞の比較からしても、この調査場面がうごきのあそびであることが

第二表

	3才児 (3.0—3.11)		4才児 (4.0—4.11)		5才児 (5.0—5.11)		6才児 (6.0—6.11)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
自然現象	2.4%	2.5%	3.4%	0.7%	3.2%	1.8%	2.5%	4.2%
動物	4.4	2.5	5.5	2.6	1.6	1.0	3.2	3.8
植物	1.3	—	1.2	0.6	0.8	0.6	—	1.3
鉱物	0.5	11.7	2.8	2.0	2.5	3.7	1.2	0.7
家屋	0.3	1.0	3.6	2.3	4.6	5.8	3.9	4.0
人	13.4	26.4	11.8	22.6	12.4	16.8	11.2	23.4
身体	4.6	0.9	4.4	3.4	3.2	3.2	3.6	3.4
病気・薬品	0.3	—	1.1	1.1	0.9	0.3	0.3	0.6
飲食物	4.6	9.0	2.6	7.8	2.7	6.7	2.5	4.2
服装品	1.2	—	0.5	2.9	0.5	1.4	1.3	1.5
日用品及び器具	11.4	7.2	8.0	10.9	8.9	9.2	6.7	5.6
遊戯及び遊具	2.5	—	1.9	2.7	3.4	3.2	3.6	3.3
社会的事項	18.0	3.7	16.4	5.3	14.6	6.7	16.5	7.6
主なる個有名詞	11.6	21.7	11.7	12.3	15.3	23.5	10.2	12.4
文化	0.5	1.0	2.8	2.7	2.6	2.1	3.3	3.5
その他	23.0	23.0	22.3	20.1	23.0	14.0	30.6	20.5

第三表

() はぬけた助詞数

	格助詞		副助詞		接統助詞		終助詞	
	男	女	男	女	男	女	男	女
3才児 (3.0—3.11)	17.5 (15.5)	23.0 (11.1)	6.8 (4.0)	4.7 (5.0)	17.0 (—)	18.3 (0.9)	21.0 (0.3)	8.3 (1.5)
4才児 (4.0—4.11)	27.0 (17.7)	23.3 (20.6)	5.7 (3.7)	5.3 (4.3)	24.3 (—)	18.0 (1.7)	22.7 (0.4)	24.0 (0.7)
5才児 (5.0—5.11)	51.7 (19.5)	36.3 (23.3)	10.9 (7.1)	6.5 (5.8)	37.7 (0.2)	27.0 (1.8)	28.5 (0.7)	21.5 (0.5)
6才児 (6.0—6.11)	49.0 (23.7)	49.4 (27.0)	11.3 (10.3)	7.6 (6.8)	33.4 (—)	48.0 (0.6)	37.7 (—)	26.4 (1.2)

第四表

() はねけた助詞数

	格 助 詞		副 助 詞		接 続 助 詞		終 助 詞	
	男	女	男	女	男	女	男	女
3 才 児 (3.0—3.11)	5.7(—) 3.3(0.6) 2.8(1.0) 2.5(3.8) 1.5(2.5) 1.4(0.3) 0.3(7.3)	9.0(0.2) 4.5(1.3) 2.0(3.8) 2.0(0.2) 1.8(—) 0.8(—) 0.3(5.6)	3.4(0.3) 2.4(—) 1.0(—)	2.5(0.8) 1.2(—) 1.0(4.2)	18.5(—) 2.5(—) 0.5(—) 0.5(—)	13.8(0.9) 3.0(—) 1.0(—) 0.5(—)	6.3(—) 5.5(0.3) 2.2(—) 1.3(—) 0.2(—)	5.2(1.0) 1.9(0.5) 1.2(—)
4 才 児 (5.0—5.11)	4.3(4.6) 7.0(—) 4.0(1.0) 2.7(0.3) 2.0(—) 1.0(9.8) 1.0(2.0)	6.4(0.7) 5.0(0.6) 4.0(2.7) 3.3(4.8) 2.7(—) 1.6(0.4) 0.3(11.4)	2.7(0.4) 2.2(3.0) 0.8(0.3)	3.2(—) 1.7(4.3) 1.7(—)	6.0(7.1) 4.7(—) 2.5(—) 0.2(—)	4.1(4.5) 2.2(0.8) 2.0(0.5)	6.3(0.7) 4.0(9.6) 2.2(—) 1.0(—)	4.0(0.2) 2.8(6.6) 0.2(—) 0.2(—) 0.2(—)
5 才 児 (5.0—5.11)	18.0(1.2) 9.8(0.7) 7.7(6.6) 5.8(0.8) 5.3(—) 4.3(0.2) 1.4(10.5) 0.4(—)	12.3(2.5) 8.0(—) 5.3(3.5) 4.1(1.0) 3.5(1.8) 2.6(0.5) 0.5(14.0)	19.7(—) 3.2(—) 1.4(—)	15.9(0.4) 1.7(—) 0.4(—) (1.5)	32.6(0.2) 3.7(—) 0.8(—) 0.6(—)	21.7(1.0) 8.8(—) 0.5(0.5) 0.4(—)	21.0(—) 8.4(—) 2.7(—) 1.0(—)	38.0(0.4) 6.6(—) 2.2(—) 0.8(—) 0.4(0.2)
6 才 児 (6.0—6.11)	14.6(2.1) 8.7(1.5) 8.0(1.8) 6.0(0.3) 4.7(5.7) 3.3(—) 1.7(12.3)	18.2(1.8) 10.4(1.8) 5.6(6.0) 4.7(2.0) 4.4(—) 2.6(2.2) 2.5(13.0) 0.2(—) (0.2)	6.3(—) 5.6(—) 5.0(—) 4.0(—) 1.8(0.4)	16.8(—) 3.4(0.3) 2.0(0.4) 1.5(—) 0.3(—)	7.3(—) 6.7(—) 4.8(6.7) 4.5(—) 3.2(—) 1.7(—) 0.3(—)	12.0(0.5) 7.0(—) 1.8(—) 0.4(—) 0.3(—)	12.0(—) 9.3(—) 6.2(—) 3.5(—) 4.4(—) 0.3(—)	14.7(1.0) 6.8(—) 2.8(—) 1.5(0.2) 0.6(—)

大きな原因となつてゐる。名詞の数は年令が大きくなるに従つて全体の語い量に対する割合が減少する傾向がみられる。これは他の品詞がより多く使用される結果であらうと思われる。次に名詞の内容を十六項目に分類しこれを百分率で示してみる。(第二表参照)これによると名詞の中で「人」が最も高率を示してゐて全体の一七％次に「個有名詞」の一五％、「社会的事項」の一％、「日用品及器具」の八％の順になつてゐる。いちばん少いのは「病氣、藥品」の〇・六％で性別に見ると「社会的事項」が男児に特に多く使用され女児の約三倍も使われている。これに對し女児は「人」、「個有名詞」、「飲食物」、「服裝品」が男児よりも多い。

助詞の形態の調査は助詞を格助詞、副助詞、接統助詞、終助詞、の四つにわけてその量をも更にその各助詞の内容を分析した。その結果は第三、四表のようになる。まづ使用された助詞をみると、年令別、性別などを通して格助詞が最も頻繁に使用され、ついで接統助詞、終助詞、副助詞の順に多く使用されている。性差は五才の男児が各助詞とも女児をしのいでゐる程度で全体にわたつてあまり差がみられない。各助詞の分析の中で一番多いのは「の」でついで「に」「が」「と」の順で七種類から八種類使用している。副助詞では「も」「は」など三種類であるが、六才の女児は六種類も使つてゐる。次に接統助詞は「て」「から」など三種類から六種類まで終助詞では「よ」「ぞ」「な」など三種類から七種類使われている。これによると格助詞と終助詞は三才頃でも殆ど全ての種類を使用することになるが副助詞はわずかに副助詞の全種類のうちの五分の一しか使われない。また接統助詞は副助詞よりもやゝ多く全種類

第五表

	單 文	複 文	重 文
3才	98.4%	4.4%	2.2%
4才	90.4	5.3	4.3
5才	86.1	8.1	5.8
6才	84.3	7.4	8.8

の三分の一使われることになる。次にぬけた助詞と使用された助詞とを分析比較してみると一番多く使用された格助詞が一番多くぬけており大体において種類別順位は、使用された助詞と反対になつてゐる。このぬけた助詞の調査は調査の基準が厳密すぎたきらいがあるが、参考までに助詞の内容を厳密に吟味してみたもので、これによつて幼児に形式的な言語生活をしいるものでは決してないことを申添えておく。格助詞の次に多くぬけるのは副助詞であるが、接統助詞の終助詞はごく僅かで幼児の話語文としては殆どもなく使用されるといえる。使用された助詞とぬけた助詞との比較は以上のようなであるが、あそびの場における助詞形態の相違については次のような結果になつた。すなわち五才、六才の男児三十名について、あそびの場を「砂場あそび」、「室内あそび」、「描画」の三つにわけて三者を比較してみると助詞の使用量に相當のひらきがみられる。

これを語い量にてらし合せてみると砂場あそびにおける助詞は、描画のそれにくらべて一番多く使用されている。ついで「室内」が多く、使用率は「砂場あそび」と「描画」との丁度中間になつてゐる。ここで面白いと思うのはぬけた助詞が「描画」に一番多いことで、「室内」、「砂場」の順に少くなつてゐる。この現象はあそびの性質による相違であらうと思われる。四つの助詞の内

容分析による種類別順位は前に述べた結果と殆ど一致している。最後の第五表は文の形態がどんなに発達してゆくか単語の分化と文の構造をみようとしたもので（第五表参照）話語文の内容を単文、複文、重文にわけ、単文に対して複文や重文の増し方をみると年令の増加につれて次第に複文、重文が増している。これによると三才になると複文も重文もすべて出揃うことになるが、その数はまだごく僅である。次にことばの内容であるが、大体五才になつてくると話語文の内容が複雑になつてくる。四才の男児によくみられる傾向であるが、なんでもかでもよくおしやべりする傾向が現れている。まだ十分にことばを使いこなす力がないようで連想をたくましくしても自分の思う通りに文があやつれず乱脈文になつている場合がよく見られる。例えば、「今年ぢやないよ、来年だよ。今年の来年でないよ。」「ぼくの家ね、かんしよの家ね、タバコ屋のかんしよだよ」など言葉の順序を考えずに関心のあるもの、印象の深いことを先に話そうとしてことばを羅列している。また「僕があかいひこーきにのつて姉ちゃんがいひこーきでそんで僕があかいひこーきにのつたよ。」のように何回もくどくどと同じ意味のことばをくり返したり、現実の話から急に及びもつかない話に飛躍するようなこともしばしばみうけられた。五才の殊に女児に自分で自分のことをほめるような傾向がみうけられる。例えば砂場あそびや描画のときに、「私はこんなに上手よ、こんなにきれいに出来たわ。」と自分自身に言いかけようようにほめている。一般に見て五才ごろから話語文も長くなり話しことばもかなりまとまつた言葉が使いこなせるようになり、相当困難な場面でも上手に扱っている。例えば、ニ

ユース映画をみて話し合いをしても、いろいろ複雑な場面の展開を割合適確につかんで大人でも分るようにことばの表現も上手になつてゐる。六才までの全体の傾向としては、取り上げる程でもないが助詞の使用があやまつて文の形態を完全な意味に表現していない無縁文が見られる。例えば、「あたまでうつつやつた」^(を)

「手をうつと骨でまがるんだよ。」「そのまつすぐにゆくの」などである。次に平均よりも多い子供のことばの内容を検討してみると、一般に語い量の多い子供の話語文は語い量の少ない子供の話語文よりも、ことばの内容が長く正しいということが常識的に考えられるが、語い量が多くても同じ意味のくり返しや乱れたことばばかりが使われていることが多い。

五、結 論

文献によると言語の発達においては女児の方が男児よりすぐれていると云われるがこの調査ではいづれの点でも男児のほうが女児よりすぐれていることになる。これは調査の面が幼児の生活全体に亘つてなされなかつたところに原因があるものと思われる。この調査による女児の語い量が偶然の結果でなくて、諸説のように女児の語いがすぐれているとすれば女児は園生活より家庭の生活の方が言語活動が盛んであるということも一応考へられる。一女児の調査であるが園児が家へ帰つてからの話語文の記録と園における話語文とを比較してみると、名詞の種類に著しい差異がみられる。このことを考え合わせるとこの場合ことばは実際に知つていても表現されていないということが考えられてくる。それぞれの環境によつて幼児の

話語文は變つてくる。といえるしたがつてこの調査によつて子供の生活場面のひろがりや、文化の過程を知ることが困難である。ぬけた助詞の調査については、幼児の話語文中にみられる助詞の使い方の方の実態を知る一つの参考として行つたもので特にぬけた助詞の量を問題とするのではない。ぬけた助詞量のその結果を取り上げて幼児に完全な言語生活を要求したり、特別にことばの訓練をしてみる必要はなく、これは成熟による自然の発達をまてばよいのではないだろうか。勿論相手に意味が理解されないようなことばや、又発音不明瞭や、早口、乱棒なことば、まわりくどい話したことばなどは周囲の理解ある手によつて正しく指導されなければならないことは

云うまでもない。正しい言語指導は幼児に大人じみたことば使いをさせることなく、あくまでもおきな児のことばから出発したことももらしく、素直で明るい、はきはきたことば使いを習得させることでありたい。幼児に正しい言語指導を行うには幼児の生き生きした実際の言語発達を十分理解しての上でなければならぬ。それにはまづ幼児の話し、基礎のことば、幼児語などを十分に理解することが必要である。日頃実際に私達の扱っている園児の個々について語いの量や、言語の習得状態などを心得ておきそれを基礎として科学的な補導することによつてこの目的が達せられるのではあるまいか。

排尿排便の躰(トイレットトレーニング)の調査

名古屋市立保育短大 珠 川 善 子

一宮市葉栗保育園 高 島 榮 美 子

白 木 喜 美 子

櫻 井 良 子

調査の動機

乳幼児期の躰が、パーソナリティの形成に非常に大きな影響を与えるということは、最近十年あまりの間に色々議論されるようにな

つた。そこで私達は、乳幼児期の躰の中でもことに排尿排便の躰について考えてみた。排尿、排便の躰について、現在の日本ではどのように行われているか、その程度を知る意味において、排尿排便が自立出来るまでの経過に関する問題、及び母親、子供の態度の問題

母親に関する問題と大別して調査したが、まづ調査(一)の排尿、排便の自立出来るまでの経過に関する問題のみ取り上げ発表する。排尿排便の躰については、身体的に躰をすべき適当な時期があり、おむつなどでも出来るだけ早くいらないようにしつけることが望まれるが、それを試みる時期、及び周囲の人々がその取扱いをえらんでしなければ、子供に反抗の態度を起させたりする場合もあるのでしつけるべきよい時期を知るためにこの研究に着手した。

研究 期 間

昭和二十七年七月より昭和二十八年二月までの七ヶ月間にわたる。

調 査 方 法

面接調査法による。(調査員があらかじめ用意した形式と順序に従つて、母親に質問して答えさせ、これを記録したものである。)一人の母親につき約三十分間を要し、排尿、排便の自立経過に関する調査項目は別表の通りはじめて排尿排便させた時期、独りで排尿をやつてみるようになった時期、独りで排尿排便後の始末が出来るようになった時期、夜もおしめを外してねるようになった時期等三十一項目にわたつてゐる。そして該当空欄に○印を記入したものである。

調 査 対 象

まづ調査地域としては、昨年七月愛知県渥美半島田原町を中心に

田原町においては四三名、次に農商半ばを業とする大久保では四名、農業を主とする浦では三名、農漁業を主とする白谷では四名、計一三四名。次に昨年十一月〜十二月に名古屋市内の三保育園、加工業を主なる背景とするH保育園三四名、軽工業地区を主なる背景とするN保育園三六名、同じくH保育園三〇名の計一〇〇名で、総計二三四名となり、その内訳は男子一三二名、女子一〇二名である。そして田原町周辺におけるものを農村、市内の保育園におけるものを都市として大別して調査を進めたが、各調査地区とも生活状態、教育程度は余り高くない地域であると思われる。

被調査の子供の年令

満六才未満で、排尿、排便の躰が完了し、心身共に健康に育つて来たと思われるものをえらんだ。

被調査者の母親の年令

市内では九九%田原では九八・五%までが二十六才から四五才となつてゐる。

調 査 結 果

おしめを外してはじめて排尿、排便させた時期について、男女共に早いものは、生後一カ月から始めているものが各々三例あり、概してシーズンには関係なく、半年までに五〇%、一年で約九〇%がこれを試みたことになる。そして大体素直に排尿、排便が出来るようになるのは、それよりも一〜二カ月遅く、一年までに約七五%が可能となる。

齒のはえはじめた時期は、男女地域による差はなく、八カ月まで

に五〇%、十一カ月までに七五%となっており、それ以後一、二カ月を経て離乳をはじめたのは、十カ月までに五〇%、一年三カ月までに七五%となっており、齒のはえる頃にすべて離乳をはじめることが分る。

かたことをはじめた時期は、一年までには五〇%一年二カ月までには七五%となっている。

歩きはじめた時期は、一年四カ月までに七五%が可能となる。

排尿、排便をしてしまつてから、これを言葉で教えることが出来るようになった時期は、男女地域による差異は殆どみられず、一年二カ月より一年六カ月の年令段階で可能となつてゐる。

排尿、排便を予告出来るようになった時期は、男子一年一〇カ月までに七五%が可能となり、女子は都市一年六、七カ月、農村が一年八カ月までには七五%が可能となり、女子の方がやや早い傾向がある。排尿、排便共に、一年六カ月より二年で予告が可能となる。

離乳を完了した時期は、地域差男女差が多少みられるが、一年一カ月までには七五%が完了することになるが、都市の男子のみ二年五カ月までに七五%となつてゐる。

つきそえば独りで便器にかゝるようになった時期は、二年より三年までで可能となるが、調査の結果都市よりも農村の方が便器の使用数が多かつたけれども農村のおまは普通通にいうおまるでなく肥桶らしいもので普通の便器を使用しない様子が見受けられた。

よるもおしめを外してゐるようになった時期は、都市の方がや、早い傾向がみられるが、二年から二年半までの年令段階で、男女共にむつきを使用しなくなるのではないかと思われる。

夜の排尿は自分から起きて独りでゆくようになった時期は、四年では五〇%、四年六カ月より、五年六カ月までには九〇%が可能となる。

反抗的になつて扱いに困難を感じた時期は農村、都市共に四年一カ月までには七五%が反抗期をみることになる。

ひとりで衣服の始末が出来るようになった時期は、男子は四年四カ月までに七五%、女子は農村四年、都市は三年九カ月までに七五%が可能となり、女子の方がや、早い傾向がある。

独りで排尿、排便後の始末を紙ですつかり出来るようになった時期は、都市は男女共に四年、農村は男女共に四年五カ月までに七五%が可能となり、四年より四年半の年令段階で可能になると思われる。

母がだきねをした最終時期は、男子の方が遅く、農村三年三カ月都市三年八カ月、女子は農村二年十カ月、都市は三年までに七五%となり、女子の方が早い傾向が見受けられる。

考 察

はじめて排尿、排便させた時期についての中間値は六カ月で一年までに約九〇%がこれを試みているが、早く鎖をはじめたものも、六カ月以降から一年位の例もすべておしめは一定の期間を経なければとれない。即ち生後六カ月から一年までの間にはじめてこれを試み、それ以後一年六カ月でおしめが完全にとれたものが全体の四五%をしめている、子供の態度としても生後一年頃にこれを行つた時には約七五%が素直であり早くはじめた例に比し反抗が少い、排

尿、排便をはじめてさせるのは生後一年前後が適当でないかと思われる。

三年頃に反抗が起つて来るが、二年頃までは時期的な成長発達からみて男女差は殆どなく、子供は母との接触によりその影響をうけるのみであるが、三年頃には離乳もすみ、だきねも終つて母との身体的な分離があり、弟が生れるなどの環境条件も加つて子供の自発性が芽ばえるその時期に、うまく環境に順応出来る子とそうでない子が出来るために、時期的に多少のづれがみられるのでないかと思われる。

夜の排尿の問題について、地域的及び男女の差が多少みられるのは、母又は家人の協力、便所の構造などからの影響があるのではないかと思われる。夜の排尿に起して便所にゆきはつきりしない時、叱るものがかなりあるところからみて、子供が夜に対する恐怖と共に反抗心を持つということも、考えられるのではないかと思う。

農村においては、女子が夜の排尿の問題について、自分から起きゆくようになった時期が男子よりや、おくれているのは、男子の方が夜の服装が簡単なこと、男子が夜のために所かまわずにするのではないかと想像されたが、都市においてはむしろ女子の方が早い傾向がある。母親が家事に従事するものが多いことと共に、女の子だからと云うので気を使い早くからしつけるのではないかと思われる。

ひとりで排尿、排便をやつてみるようになった時期は、女子の方がやゝ早く、衣服の始末が出来ようになつた時期も女子の方が早い、女子の服装は排尿、排便は比較的便利であり、男子のズボン

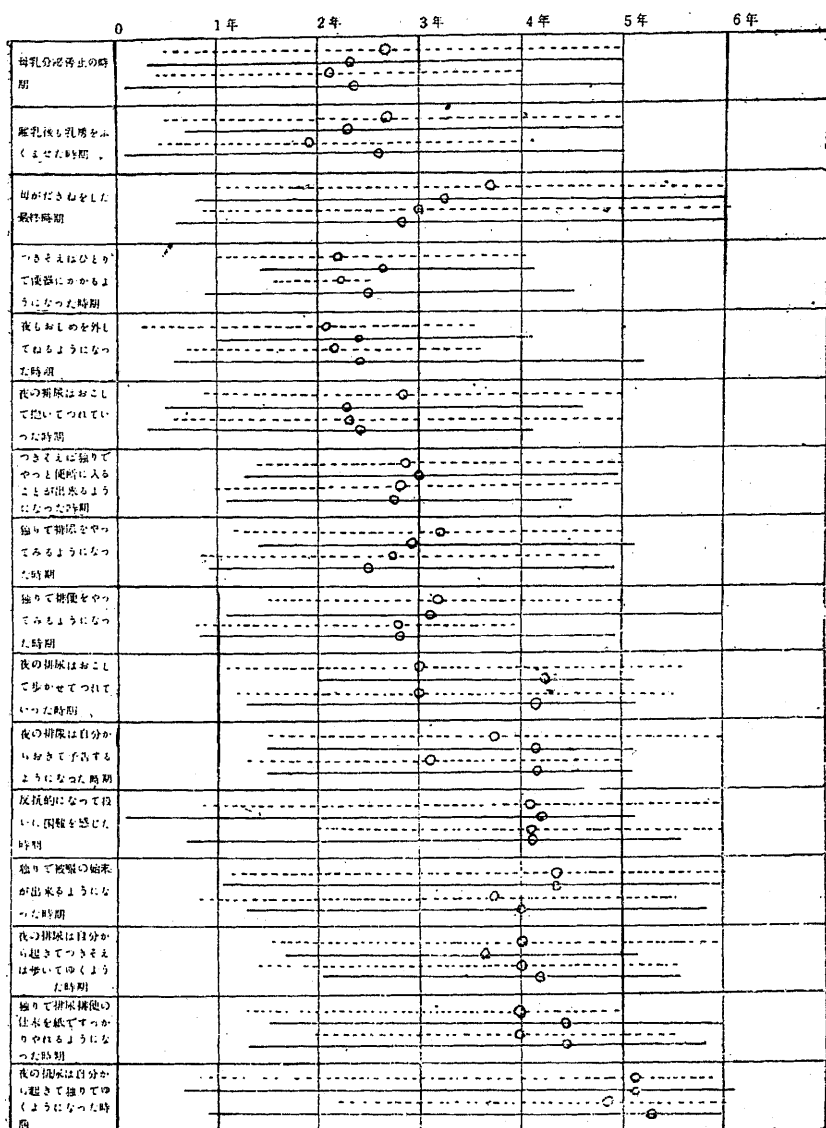
の方が構造の点でやゝ不便なために、時期的なものにも影響するのではないかと思われる。

はじめて便所に入つてみようとする子供の自発性の芽ばえる二年頃は、その自発性を助長するような可愛らしい、子供には楽しいお便所が作られるのが望ましい、保育園においても年少児のためにもつと設備その他考慮され改善される点があると思う。

以上を総括すると、時期的な発達過程は山下氏の発表の数字と殆ど一致し、農村と都市、母親が早くから排尿、排便の躰をはじめて手をかけるのとかけないのとの関係なく、大体一定の時期が来なければ排尿の予告をしないし、おしめを外してしまうことが出来ないし、ひとりで便所に入ることが出来ないと思えるのではないかと思う。故に子供の躰に当つては、精神的身体的な両面の発達過程を考えあわせよい時期をえらんで躰けることが、その子のパーソナリティを円満にし、母親や周囲の人々の手数の無駄をばくことが出来て非常に大切だと思う。

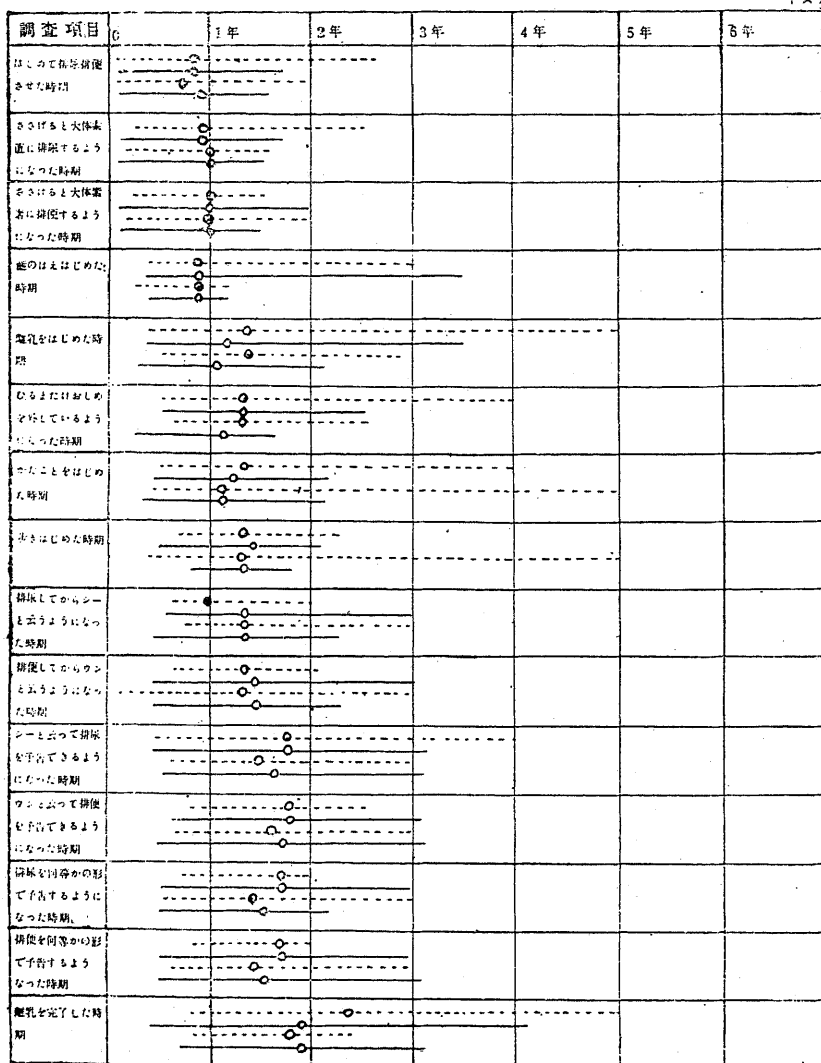
なお本研究は母親の問題（母親の一日の生活状態、及び孝歴、排尿、排便の躰に当つたのは母か又は祖母その他の人であるか。及び母親、子供の態度の問題と共に調査したものであり、母親の側から云えば、都市では余分に世話をやきすぎている傾向がうかがわれ、農村では母親が、経済的、体力的、時間的に子供に接することが比較的少く、その態度が心ならずもほうりばなしにされている傾向がうかがわれる。

母親の態度として、はじめて排尿排便をやらせようとして子供がいやがった時には、無理じいしない、しばらくさせる、叱つてやる



排尿、排便自立期のひろがり [○印は標準自立期(75%完成)]

線 農 村 男 子
線 部 市 上 下 女 子



という許容的、中間的、強制的態度と思われる段階に分けてみたが農村都市共に差なく、許容的態度が五〇%、中間が三〇%となった。また排尿、排便を予告するようになってから失敗した時叱つたものが、都市三〇%、農村二〇%で許容的態度が約五〇%をしめている。すべてを通じて著明な男女差はない。尚又全体を通じて姑のいるような家庭では、排尿、排便の場所が定められており、お七夜などからはじめさせ、比較的早期からきびしくする傾向がうかがわれた。

最後に名古屋市内の都市といつても中流以下の三保育園に限られており、農村と云つても渥美半島の田原町周辺の保育園のみであるのでこの資料が標準になるのではなく、あくまでもこのような傾向があつたということだけを、将来の何かの尺度の一部にでもなればと思ひ綴つてみた。また家庭環境特に母親の問題とも密接な関係をもつて無視出来ぬものであり、今後也更にこの面より調査を続けたいと思う。なお本研究について、御批判並びに今後における御教示御指導をたまわれば幸いと思う。

(参考文献)

幼児における基本的習慣の研究 山下 俊 郎

乳幼児の心理学、出生より五才まで

アーノルド・ゲゼル 著
山下 俊 郎 訳

名古屋附近におけるトイレット、トレーニング

名大、医学部、精神科

◇ 近 刊 ◇

東京都麻布幼稚園長 鈴木虎先生秋

東京学藝大学講師 角尾 稔先生 共著

千葉大学附属幼稚園長 宮内 孝先生

幼稚園教育の実際

序文……倉橋惣三先生

〔内容〕 幼稚園教育の目的・幼児の成長発達・幼稚園

の教育課程・幼稚園に於ける指導・教育内容

の指導法・幼稚園の環境

新しい幼稚園教育の在り方と実際について説
かれた教育関係者必読の書!!

発行所 株式会社 フレーベル館

A5判三五〇頁
クロス装製本
予価 三五〇円

乳幼児保育計画に対する基礎資料の研究（その一）

江東橋保育園

東京都庁

愛育研究所

鈴木

秋田

平井

木と

田美

井信

く

子

義

「基本的習慣の早期樹立について」

幼児が毎日繰り返して行う生活の営みが一つの行動の型を作り出し、それがやがて習慣となり私達一生の生活の型の基盤となることを考える時乳幼児の習慣のもつ意義は誠に大きいと云える。

中でも基本的習慣を早く正しく身につけることは人生のスタートに立つ子供にとつて極めて大切である。勿論、家庭においても基本的習慣の自立が早く出来ることは望ましいことであるが特に、乳児院や保育所のように低年齢の子供を集団的に保育することがその存在理由の重要な要素となつてゐる。施設では早期よりよい生活習慣を身につけることは非常に大きい意味がある。

之は単に保育者の手数が省けると云う便宜的な意味を指すものではなく、子供自身にとつては自発的な行動が出来、独立心を養い、自分のことは自分でする責任感を培かう好ましい発達をすることが出来ることを意味するからである。又、乳児院や保育所の集団的な

生活の中で人間生活の最も土台となるものを学習することは社会生活に適応できる能力の大切なものを身につけることであり、又この基本的習慣の自立によつて小さい子供なりに社会生活に入つていくための準備が整えられることも意味するからである。

このように考えると基本的習慣とは社会生活に適応するための第一段階を経験することであり、しかも乳幼児が正しい発達をするための最も土台となることを指すことになる。そこで私達は三才未満の子供の保育計画を考える際、その最も根本的であり重要な要素として基本的習慣の正しいしかも早期樹立について問題を探り上げる必要を痛感したわけである。愛育会の平井先生を中心とした三人で別表のような基本的習慣に関する七五項目の問題を複製し、大略、意志の発生、試行、完成の三段階に問題を分類して之を都内公立保育所、一〇ヶ所に依頼して比較的長期間（六ヶ月以上の保育期間を有するもの）保育した三才未満児、六六名について各項目別に初発の年齢を記載してもらつた。

A、食餌について

匙の使用は、既に一二ヶ月に於て自分で使おうとするものが一〇例（一五%）及び自立への意志が表われている。一三ヶ月になるとこぼすが大体一人で使える者が二名あり、殆んどこぼさずに使う者は一四ヶ月に一名、一六ヶ月、一七ヶ月、一八ヶ月に一名づつとなつてゐる。即ち匙の使用は、既に一年以前から始めてもよく、完成の目標を大体一年半以前、早い場合は一年二ヶ月に持つことが出来る。この成績はフエントン氏、山下俊郎先生の報告より三〜六ヶ月早いことになる。一年二ヶ月で完成したのは男児であるが、生後一年一ヶ月で入園し、その後一週間で匙の使用を初めた。子供用の机と椅子を用い、盆にのせて食餌を前におき、匙を持たせ、食餌をすくつて口に運ぶまでの動作を手をとつて教えた。一週間でこの動作は完成したが匙に入る食餌の量が少なすぎたり、途中でこぼすことが多かつたので、次の週は匙に食餌をちゃんと入れてから口にもつていくことを二、三日手をとつて教えたが之亦一週間で完成した食餌を手でつまむことを禁じたところ、次第に手の運びが慎重になり巧みになつて、一週間で完成し指導を初めてから三週間であつた。

然し一般に匙を使用しようとする者は一年半に多く、こぼさなくなる年令は二〜二・五年に多い。

箸の使用について

之は既に（一年で自分で使おうというものが二名表われ、一四ヶ月で握り箸で食べる者がいる。完成は二年にならないと表われない

が、之も山下先生のいわれる三年を約一年短縮して保育計画の目標を變えることも出来ると考察される。然もその子供は二年でおいしいものをちぎることが出来た。

茶碗をさせる

茶碗も、固形物、汁物の入つてゐるものを一年で使用するが、匙と両方をもつ子供は一年七ヶ月、箸と両方をもつて食べる子供は一年五ヶ月に表われているが之などは従来の基準からみると驚くべきことであらう。

始末をする

食べ終つてから、食器を重ね、食事エプロンで口のまわりをふき、食器を運ぶ者は一年八ヶ月に一名、二年になると三名となりその後はどん／＼増加して、二年半には大体の者が出来るようになってゐる。

B、排尿便について

この習慣の中でパンツの着脱が一人で出来る年令は二年一ヶ月、二年三ヶ月からは次第にその数が増してゐる。紙の使用の完成は、排便後は一年八ヶ月で一名、一年一ヶ月で一名その後二年三ヶ月から増し、排便後の紙の使用は二年四ヶ月から表われ、二年七ヶ月以後次第にその数が増えている。

C、衣類の着脱について

ボタンのかけはずしも二年から二年半、紐を結ぶことも二年三ヶ月から二年半に目標をおくことが出来る。ぬいだものの始末もきち

んとたゝめるものが二年一ヶ月で三名表われている。

D、清潔の習慣について

手を上手に洗える者は一年九ヶ月で二名、一年一〇ヶ月に七名あり二年からは次第に増加している。鼻が上手にかめる者は二年四ヶ月からその数が増え、うがいは二年一ヶ月でガラ／＼のできる者があり二年三ヶ月でブク／＼が出来、者があつて完成を二年七、八ヶ月においても差し支えない数が出ている。

歯をみがける者は二年十ヶ月で二名あり、顔を洗う者は一年八ヶ月で一名、二年三ヶ月から次第に増加している。

以上のように従来の調査よりも早い時期に基本的習慣をつけ、子供の自立の生活が余りむりなく始められることを知ることが出来た。この調査の対象となつた保育所もそれ／＼の処で自由にその指導について考え、環境を設定したもので、ある約束され、標準化された指導法によつて保育をしたわけではない。

又、特に自立完成の時期を早めようと思ひ的に目標をそこにおいて特殊な保育を行つた結果を記載したものでない。そこで私達は子供の生活がどんな環境と指導の中で行われた場合に最も簡単に、最も早く自立できるかを個々の事例によつて研究し、それを普遍性のあるものにして乳児保育の計画を樹てるための基礎資料として求めていきたいと思つている。最近、同様の項目によつて相当数の三才未満児を対象として調査を行つたがまだ整理が出来ないので全然古いしかも少人数の調査で発表したことは誠に残念であるが皆さんの御批判と御指導を切に願ひする次第である。

水害お見舞申上げます

日本幼稚園協会編集部

九州幼稚園保育所のみなさまへ

社長水害見舞に出發

弊社小高社長は、この度水害を受けられた九州地方の各幼稚園、保育所をお見舞のため、七月八日お見舞品を携え、社員同道、水害地に向け出發致しました。

株式会社
フレイベル館

乳幼児の保育カリキュラムに関する研究

● 意志 ○ 予定全 ◎ 自主

項目	年齢												備考
	1年	1A	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
起と便との	● ○ ●										△		
箸と便との	● ○											◎	
茶碗と便との	◎												
足と茶碗と其に使との								◎					
箸と茶碗と共に使との										◎			
如米とつとの								◎					
食事	お茶つたとの	◎											
	パンの善睡との	●					●	○		◎	飯	◎	飯
排便	押成と一人のつとの	◎						◎	子	◎			
	押成と一人のつとの	◎						◎	氏				
衣類	シャツと上衣の着脱					●		○				◎	
	シャツと上衣の着脱											◎	◎
清潔	手洗いの着脱											◎	
	手洗いの着脱	●											
清潔	鼻拭きの着脱											◎	
	鼻拭きの着脱	●										◎	◎
清潔	7分間の着脱											◎	
	7分間の着脱											◎	◎
清潔	ガムカガムとの着脱											◎	
	ガムカガムとの着脱											◎	◎
清潔	顔と舌との着脱											◎	
	顔と舌との着脱											◎	◎

項目		要目		調査項目		子供の氏名		調査当日に於ける満年齢					
食	匙の使用	1	自分で使おうとすることがぼず										
		2	こぼすが大体一人でする										
		3	残どこぼさず使う										
	箸の使用	1	自分で使おうとすることができない										
		2	箸の持ち方にぎり箸でできる										
		3	殆んどきちんと持って上手にたべる										
茶碗の使用	1	自分で持とうとすることが出来ぬ											
	2	固形物の入ったものなら持てる											
	3	汁物の入ったものを持てる											
事	匙と茶碗の使用	1	片方をおいてならたべる										
		2	両方を持つ										
	箸と茶碗の使用	1	片方をおいてならたべる										
		2	両方を持つ										
	食べ方	1	匙でおいもなどを千切る										
		2	箸でおいもなどを千切る										
3		30分以内で終る											
あと始末	1	お友達に食器をくぼる											
	2	たべ終えて食器を重ねる											
	3	口のまわりをふく											
	4	たべ終えて食器を運ぶ											
排便	おむつ	1	時々教えるがおむつがとれぬ										
		2	時々失敗するがおむつはとれた										
		3	おむつがとれる										
	パンツ	1	パンツを脱がうとすることが脱げない										
		2	前の紐をはずせば排泄する										
		3	大体はずせばあとは自分でする										
		4	獨りですべて出来る										
		5	パンツをはこうとすることがはげぬ										
		6	手伝ってやればはける										
		7	一人ではける										
	排尿	1	全く教えない										
		2	便器入れればする										
3		大体教えるが時々失敗する											
排便	排便	4	大体紙でふける										
		5	一人で出来る										
		1	全然教えない										
		2	教えるが時々失敗する										
		3	失敗しない										
		4	紙を使用しようとする										
		5	紙を使うが完全でない										
		6	上手にする										
生活の習慣	衣類の着脱	7	便器のふたをとつてする										
		8	したあとふたをしめる										
		1	上衣やシャツをぬごうとすることができぬ										
		2	着ようとするができぬ										
		3	衣類を身にかけることが出来る										
		4	すつかり着れる										
		5	手伝って鈕がかけられる										
		6	鈕をはづせる										
		7	紐をほどくことができる										
		8	結ぶことができる										
		9	ぬいだものをまとめる										
10	ぬいだものをたためようとする												
11	きちんとたためる												

〔基本的習慣の調査〕

要求の心理から見た保育用品

愛知県立女子短期大学

江 上 秀 雄

児童の行動は児童のもっている要求 (need, das Bedürfnis) によつてひき起されるものであるという説明はクンペン(K.J. Kumpf)に端を発し、トマス(W.I. Thomas)トルマン(E. C. Tolman)を経てその後多数の学者が行つています。そしてその基本的要求としてはどんなものがあるかということにつきましては、諸説が一致していませんが、食欲や排泄、性的満足や活動等という有機的、生理的の要求と愛情や所属、独立や社会的承認という人格的、社会的要求の二群があるということは一致しています。何れにしてもこの要求という概念は本能論の復活ではなく、人間が周囲の社会と関係を持つことによつて内部的に緊張状態を呈し、或は又内部的に圧力を持つに至つたことをいうのであります。たとえば母体内の胎児にはいわゆる食物に対する要求が発現しているとは考えられません。彼が誕生して栄養の通路が切断せられ、同化作用によつて葡萄糖が消費せられ、母乳という刺激が与えられると、始めて母乳への要求が発生するのであります。即ち葡萄糖の消費によつて、新生児の内部

組織条件の均衡が破れ、母乳の摂取によつて再び均衡が回復されるのでありまして、かくして不均衡と均衡が反覆されることによりまして新生児の中枢神経系統の組織に変化をもたらします。それは同時に外界刺激の感覚であり知覚であります。人間にかような感覚知覚によつて食物に対する要求が発生するのであると考えるのであります。

児童にはかくの如くにして生じた様々の要求がありまして、その満足を求めて行動しているのであります。若し幸にしてその要求が満足されましたならば心理的に緊張は解消せられて均衡状態になりますので問題はありませんが現実にはとかく円滑に要求の満足を期待することは出来ません。寧ろ我々の生活環境には要求満足に對して阻止的、圧迫的に妨らく幾多の条件が存在してしまひて、それに対処する仕方は個人により様々でありましてそこに変化に富む人間の行動が現われるのであります。

さて人間が要求の満足を求めるために目標追及の行動を繰返して

いて何かの条件の為に妨害をうけ阻止された状態になりますと要求阻止 (frustration) の状態と申します。又二つの乃至それ以上の相容れない要求、同時に存在の板ばさみとなる状況になりますと葛藤 (conflict) といいますが、この何れの場合におきましても個体内部の心理的緊張は著しく高まり、この緊張を解消する為に種々の望ましくない反応が屢々産み出されるのであります。例えば攻撃、退行、逃避、抑圧、合理化、転嫁、自閉、同一視、投射、白昼夢などの不適応行動はそれであります。

されば児童の人格を形成せしめるに当つて是等の不適応行動を起させない為に彼等に要求阻止や葛藤の状態をとらせないことは教育上考慮すべき問題と存じます。然るに私共の使用しています保育用品には知らず／＼の間に児童に要求阻止の状態を起さしめるようなものがあると存じますので御賢考をお願いしたいと思います。私は外国留学中に買い集めてみました、二三の実物について説明申し上げます。

(一)、口の二つある哺乳ビン。この哺乳ビンは英国のものであります。たゞ掃除がよく出来て衛生的であるというだけのものではありません。嬰兒が一方の乳首を呑みながら他方の乳首を指でいちづつて恰も母の乳首をなめる時の態度に出られる為のものであります。凡て哺乳ということは乳という液体を児童の胃の中に入れるというだけのものでなく乳首を吸嚥する際の感覚的または情緒的気分を味わせることが大切であります。同哺乳に際しての要求不満を少くしようとする考えから生れたものであります。

(二)、布製の絵本。この絵本はドイツのものでありますが、凡そ二才

までの児童にとりましては絵本は玩具であつてもあそぶ為のものであります。破つたりよごしたりするものであります。然るに、我々は之を愛児に与える時に「之は大切だから、破つてはいけません。よごしてはいけません。」といつてすでに与える時から児童に要求阻止を感じさせています。然るにドイツの母は之を児童に与えて「破つてもよろしい。よごしてもよろしい。思う存分遊びなさい。」といひます。丈夫な布ですから子供の力では破れません。よごれたら石鹸をつけて洗濯します。経済的で而も衛生であります。

(三)、先の左にまがつた匙。これは左利の児童を右利に矯正するときに使用するものでありますが、我々の矯正の仕方「あなたのような左手で御飯を食べる者には御飯を食べさせません。」といつて箸をかくしたり、御飯を取り上げて児童に対して権威的に喰みますので彼等の要求を阻止すること大なるものがあります。而も矯正の実はなかなかあがりません。然るにドイツの家庭では家族一同が食卓を共にして皆がこの匙で食べます。この匙は右手で持てば食物をすくつて口に入れることが出来ますが左手では食物がこぼれて口に入りにません。こうして談笑のうちに悪癖を矯正しています。而も三才までの自我の主張の少ない矯正の効果のあがり易い時期にやつてしまひます。三才をすぎますと反抗期に入りますので児童の心に要求阻止を強く経験する年令になりますのでこの時期に強制的指導は避けようというのであります。

(四)、鶯や牛の鳴声を出す笛。此等は皆児童の生活意識から割り出した保育用品であります。粗暴な子供に対して親が勘高い声でコラ／＼と叱つては反抗心が生じ人格的要求が阻止されます。そんな時

に牛が「もう——」となくと、我々の友がよんでくれた。牛のよう
に悠々たる態度に出ますようという気になります。一体自然の世界
には偽りがありませんが人間の世界には偽りがあります。我
が国の幼稚園の組分けに赤組とか青組とか色の名を用いていると
ころがありますが、あれは呼ばれたときに発音を弁別してこれをき、
分ける事に注意を払わなければならないのみならず、自分の属する
組を覚えるのにも一苦労でありまして、始めて登園する園児にはこ
れが又要求阻止になります。外国では自然界から名をとつていると
ころが多くあります。牛組の先生は牛先生、鶯組の先生は鶯先生と
一度覚えておけば翌日はこの笛を吹いて牛の鳴声のする所や先生を
めざしてゆけば、自然自分の室にゆけるといふしくみであります。

④、安全帯。布製のバンドを児童の胸から腹に当て、背中ではばり
その先を二米位の紐にしてこれを母が手に持つて児童を牛を追うよ
うな恰好で連れて道を歩くときに使用するものであります。一体児
童は大人よりも運動するものでありますから、街を歩かせていても
右往左往、あちらのショウウィンドをながめ、こちらの犬に気をと
られるものであります。その時に紐をゆるめて、要求を満足させて
やります。もうよかろうと思へばぐつとひきます。するとこちらへ
走つて来ます。ころびそうな道を歩くときには紐の長さをみちかく
して我々が児童の手をひら恰好で連れて歩きます。児童の身体の安
全をはかる為のものでありますから安全帯と名づけています。

⑤、さげ椅子。布製の子供用椅子で足がなく左右の抵掛のところが
両親の手によつてさげられるようになっています。一俵児童は次表

のごとく極めて活動的のものでありますので、このさげ椅子や、前
記の子守帯が考案されたものであります。日本のように母が子供を
背負つていては活動を制約するのみならず絶えず母の後頭部をみつ
めていますので視野のせまい人間になると外人はいいいます。この椅
子に腰をかせさせておけば、降りたい時には何時でも降りられま
す。而も眼の前には何等の障害もなく極めて広い自然が展開されて
いて気宇瀾大、視野の広い人間が出来うると信じています。そして
子供のお守はお母さんだけがするものでなく、父と母とが共に負
担をするというのがこの椅子のねらいであります。

——児童の一日中に於ける身体運動の程度——

(佐々木哲丸小児科学による)

年齢	平均値	小児/成人
0—6	一三〇九	一/一〇
7—12	二二四一	一/六
1—2	一一三四七	一/一
2—3	一八九〇二	三/二
3—5	一六五七〇	五/四
5—7	一八八八五	三/二
7—10	一八一七五	三/二
10年以上	二二九四二	二/一
成人	一二九三八	一/一

以上はほんの一例にすぎませんが何れも児童を不必要な要求阻止

の状態におかしめないという考えから考案されているものであります。児童中心主義の教育観からいたしますならば、児童を監視したり、世話をやくよりは児童の要求を満たしてやるような工夫をすることが効果的であるということになります。勿論児童の求めるものを無視しては教育は行われませんからこの考は至当であります。然し児童の求めるものをそのまま、満すのみでも指導はあり得ません。寧ろある程度の要求阻止の経験はのぞましい人格形成の上から見て必須のものであります。この経験を通して児童は自己評価や、

音 遊 び

今、ラジオからどんなに美しい音楽が流れて来ても、それを聴こうとする態度と心がなくては音楽としては聴えず、たゞ音として聴えるかも知れませんが、又全く何も聴えないかも知れません。

四月に入園して来た子供がマーチに合せて手が打てない、歩けな

現実認識の度を深め、人生に不可避のものとなつてゐる要求阻止によく耐え、それを克服打開してのぞましい適応をなしとげる技術を習得し、要求阻止によつて却つてある仕事への熱心、努力、さらには創造的活動さえ引き起されることもありますから要求阻止必らずしも有害ではありませんが、我々は無意識的にあまりにも行く児童を躰けるの美名の下に彼等の要求を阻止して思わしからざる人格を形成せしめてゐるのではないでしょうか。他山の石として外国に於ける保育用品を紹介した次第であります。

大阪基督教短期大学

小 木 曾

光

い、と云うのは何故でしょう。未分化時代であると言ふ事もありませんが、私は又、次の二つの場合もあるのではないかと考えて見ました。

一、その子供の持つてゐるリズムに音楽リズムが合わない場合。

二、音を聴く態度と心が出来ていない場合。

そこで私は音を聴く態度を養う為に興味面白く変化をつけて子供達に種々な「音遊び」をして見ました。すると拍手はマーチに合い足踏みが出来、次は歩ける様になつて来ますが、これは子供自身生れながら持つてゐる所のリズム感覚が「音遊び」によつて引き出されるからではないかと思ひます。今ここに家を建築しようと思ひますと先づ最初に測量をし、その土地に適した設計を考えて図を書きます。それから地ならしをして設計通りに綱が張られて地面が堀られ、その溝に小石を入れて基礎工事をしつかりしてから土台石を置きます。音楽教育に於ては測量や設計図等は音楽環境調査やその他の調査に当り「音遊び」は地ならしや基礎工事の様なもので土台石はリズムに当ります。此の土台石のリズムの上にメロディ、ハーモニーの柱が立てられて、音色も加つて音楽と云う家が出来上つております。リズム感の確立によつてメロディー感なり、ハーモニー感とは本質的になつて行き、リズム感の不安定は幾らその上にメロディ感やハーモニー感を積み上げても結局、崩れ易いものとなつてしまひます。音楽の土台石であるリズムは基礎工事のやり方一つによつてゆるぎない土台石となるのであります。ですから幼稚園や保育所に於ての音楽教育は「遊び」の形式(学習)で基礎から系統立て、指導しなくてはならないと私は考へて入園式のその日から二ヶ月位は「音を聴く」ことを中心に色々な遊びを工夫しております。庭に遊んでいる時でも「あれ何の鳥でしょう」と云えば砂場の子供は、お団子作りの手を止めて、じつと耳をすまします。「聴えなくなる迄、飛行機の音を聴きましょう」と云えば、皆無心で耳を

すまします。此の態度と心境が大切な事で、将来、良い音楽を聴き分ける耳を持ち、又、他人の話を靜かに聞く習慣を養う第一歩になると思ひます。

或る日の事、路で出逢つたお母さんに「まあ先生！此の頃家では面白い事が流行つてゐましてねえ。『靴の音あてごっこ』なんですよ、それが美代子が一番良くあてるんですよ」と云う事を話して下さいましたが、幼稚園でしている「音あてごっこ」が家に帰つて迄しているらしいのです。美代子ちゃんの大好きな「音あてごっこ」の音とは何でしょう。私は子供達に音話をして、

一、音はどうして起るでしょう。

二、音は何故聞えるのでしょうか。

三、音の種類と、その出し方、等についても話してあげました。

音遊びとしては次の様なものを作りました。

一、太鼓の時計

太鼓の音を数えます。

二、石ひろい

太鼓の音の数だけ石を拾わせます。

三、耳すまし

自然界やその他の自分の周囲に起る音を聴きます。

四、音あてごっこ

楽器やその他の音を聴いてあてさせます。

五、好きな音

例で当てた音の中から答えさせます。

六、きれいな音

例で当てた音の中から選び出します。

七、高い音低音

例で当てた音の中から選び出します。

八、ピアノの高音部

背伸びして歩きます。

ピアノの中音部

普通に歩きます。

ピアノの低音部

這つて歩きます。

九、音の強弱

山彦遊び。

十、音の速さ（スタッカット）

椅子取り、まりかくし、音の汽車

十一、音の方向遊び

十二、名前あて

以上

これからの日本を背負つて一歩々々前進して行つてくれる今日の幼児達が、やがて各自の力で建てるであろう音楽の殿堂を、砂丘の上に土台石を置かない様に、しっかりと基礎工事をしてやりたいと考えて私は色々工夫しております。

幼児の相談事例について

愛育研究所

竹 田 俊 雄

主訴としては

友達と遊べない（五）

無口、幼稚園で話さない（九）

内気、はにかむ（六）

遅滞している（二）

知能程度（六）

就学、就園（六）

一人子の指導（二）

幼児の教育相談にあらわれた「社会性の乏しい子」について考察する。

この種の相談は昭和二十七年途中に愛育研究所で私が取扱った相談およそ六〇〇件中、三五件ある。年令は就学前のみをとり、またはじめから精神薄弱が主となつている事例は範囲外とする。

となつてゐる。

テストに対する反応は次のようである。

テスト不能 (一)

テスト場面に入りにくい (一〇)

反応がおそい (五)

小声で答える (二)

すぐ「わからない」という (五)

むずかしいと答えぬ (五)

ききかえすと答えぬ (一)

「かゆい」といい出す (一)

ねむつたふりをする (一)

比較的よく反応する (三)

二

知能検査の結果は次のようである。

I Q	一三〇台	一
〃	一二〇台	四
〃	一一〇台	八
〃	一〇〇	一三
〃	九〇台	四
〃	八〇台	二
〃	七〇台以下	一
〃	不明	九

この幼児のきょうだい関係を調べると、

	I Q 二〇台以上	I Q 一〇〇台	I Q 九〇台以下	計
一人子	四	一	三	八
長子	七	七	二	一六
末子	一	二	一	四
同性二子	〇	二	〇	二
同性長子	一	〇	〇	一
中間子	〇	一	三	四
計	一三	一三	九	三五

また同居する祖父あるいは祖母の有無は次のようになつてゐる。

	I Q 二〇台以上	I Q 一〇〇台	I Q 九〇台以下	計
祖父あるもの	二	五*	三	一〇
祖父あるもの	〇	一	〇	一
祖母あるもの	六	〇	〇	六
計	八	六	三	一七

* この中一人は祖父母を父母と子に呼ばせてゐる。

母はすべて有るが、父の死亡しているものは二、在外留学中のもの一、外人で帰国中のもの一である。

三

以上は統計的に考察したものであるが、これを個別的に見ると社会性の乏しい子は、知能の低い場合は、知能の低いことが劣等感を生じ、社会的な適応を困難にしていると考えられ、知能の普通以

上の場合は、一人子、長子、あるいは祖父母などの存在というような家族関係による周囲の態度が、子どもを過度に愛することとなりその結果子どもを自立させず友達等との交渉を乏しくさせて、社会性の発達を妨げていると考えられる。

(個々のケースについては省略)

年令別にみた乳歯ムシバ罹患程度

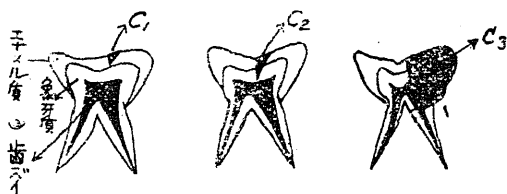
保育医学研究会

深 田 英 朗

はじめに

従来乳歯はいずれ落ちる歯であると云う至極簡単な理由のもとにその存在は余り重要視されない憾みがありました。こうした傾向は私共歯科専門分野に於ても多分にあつたのであります。幼稚園保育園などの歯科衛生管理の実状はその表れの一つだと思われれます。この点に關しては私は昨年本学会に於て発表致しました。ところが昭和年代以後小児期を対照といたしました歯科学的研究が相次いで表れ、特に Broad bent-Bradie 等のレントゲン——セファロメトリ—

による研究 Helman Krogman による人種計測学研究、岩垣等の累年模型による研究等によつて乳歯の必要性と云うか、乳歯の持つ意義がだん／＼はつきりして來たのであります。つまり顎顔面が正しい成長発育を遂げるにはどうしても健康な乳歯の存在が必要であると言ふ事が分つて來たのであります。米國に於きましては今日小児期の歯科学は歯科学の中心的問題として真剣に研究され又社会的にホーサイス、或はグーゲンハイム等の小児歯科専門の診療所を中心として養護の手がさしのべられている状態なのであります。又ニユージランドに於きましては特に School dental nurse と云う専



1 ムシバ罹患程度

門家の制度を設け小児期の歯科活動に目ざましい努力をつくしているのであります。我が国に於きましても過去三〇年来学校歯科と云う点に關して実に大きな犠牲を払つて來たのであります。併し、皆様よく御存じの様にその結果一体日本の小児の歯科衛生はどれだけ向上した事でしょう。

又子供達のムシバは、一向減少したとは申されません。これは幾多の原因のある事でしようがその最大の理由は乳歯の保護を無視したからなのであります。云い替えるなら小学校からでは既に遅いのであります。乳幼児期の歯科衛生の確立こそ小児の歯の健康の鍵を握るものであります。その表れの一つとして厚生省は昨年度より、児童福祉法指定歯科医師の制度をつくり、今年度は乳幼児歯科衛生のために1200万円の予算をとつて居ります。又今年6月に行はれます口腔衛生週間もその重点を乳幼児の歯科衛生に於て居ります。さて、大変前置が長くなつたのでありますが、實際保育にたずさわつていられる皆様方に乳歯問題を真に理解して戴き皆様方の貴い御協力によつてこそ、小児の歯牙の健康は保たれると信じますので、私はや、専門的で皆様に興味は薄いとは知りつゝ、も各年令別による乳歯ムシバの罹患程度を調査致しました結果、いさゝか保育医

齲蝕程度別にみたムシバ罹患歯率

年令	性	齒数	齲蝕程度	齲蝕症第一度	齲蝕症第三度
			齒数	ムシバ罹患歯率	ムシバ罹患歯率
0	男女	34 22		0 0	0 0
1	男女	548 512		3.28±0.758 1.38±0.523	0 0
1	男女	2495 2227		8.58±0.861 7.58±0.492	2.05±0.282 1.97±0.297
2	男女	7434 7676		10.41±0.41 10.99±0.36	4.94±0.26 20.67±0.46
3	男女	18352 19136		12.65±0.34 12.84±0.34	7.53±0.19 8.67±0.20
4	男女	33079 29796		12.77±0.25 13.25±0.19	9.01±0.16 9.99±0.17
6	男女	38544 67776		12.22±0.17 12.15±0.17	9.34±0.14 8.89±0.14

(2表)

学上興味ある事実に至遭遇致しましたので発表いたし皆様の御批判を仰ぎ度いと思ひます。

元來身体検査の場合私共はムシバ1度2度3度と云う風に、ムシバの罹患程度を大体3つの状態に分けて居ります。ムシバ1度と申しますのは図1にありますが様にムシバの浸蝕がエナメル質にかぎられた場合、ムシバ2度は象牙質まで達したムシバを申します。ムシバ3度は歯髓まで達したムシバのことです。

齲蝕程度別にみた乳歯ムシバ罹患率 (C_1 と C_3 との比較)

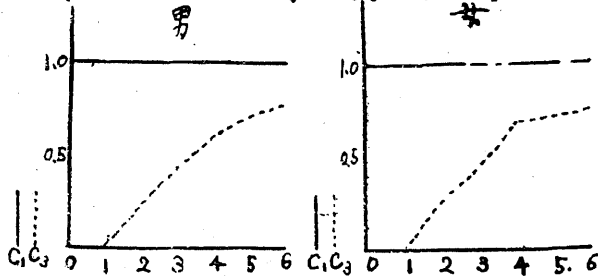
年齢	性	齲蝕程度	合 計			
			C_1	C_2	C_3	計
0	男女					
1	男女					
2	男女		1 1		0.24 0.27	
3	男女		1 1		0.42 0.42	
4	男女		1 1		0.59 0.68	
5	男女		1 1		0.70 0.69	
6	男女		1 1		0.77 0.73	

(1表)

処が乳歯に於きまして今日の齒科の治療学がその治療を保証し得るのは C_1 だけだと申してもよいと思うのです、この点は永久齒のムシバと非常に異なる点なのであります。それ故乳幼児期の齒科は如何に早く C_1 を発見しそれをくい止めさせるかと云う点にあるのであります。

こゝに私は幼稚園或は保育所齒科の大きな使命があると思うのであります。臨床医の所に疼痛を訴えて泣き乍ら訪れる子供達の齒は

齲蝕程度別にみた乳歯ムシバの罹患状況 (C_1 と C_3 との比較)



研究方法及び成績

もはや治療は望めないものであります。痛み止めの域を出る事が出来ないものであります。つまり今日小児の齒科衛生は臨床以前のものとして私共は考えて居るのであります。

研究対照として0歳才兒童105名内、男63名、女42名をミラーピンセットに依り細密なる口腔検診を行つた。調査対照たる乳幼児の年齢計算は検査時に於ける満年齢として一年間隔に調整した。従来ムシバの研究に於てその發生状況を表す場合DMF率、ムシバ罹患率、一人平均ムシバ数等があるがこれ等はいずれもムシバの数によつて表されたものである故個々人のムシバの罹患程度と云う点是不明であります。然るに前述せる如く乳齒ムシバは臨床上前の罹患程度が大きな意味を存する故一人所有ムシバ本数が何本であるかと云う事よ

り治療の出来るムシバ一度が何本で不能な2度3度が幾等かと云う事が問題だと思ふのであります。こうした關係を集团的に各年令別に調査したのであります。つまり各年令別に C_1 と C_3 罹患率を算出しました。罹患率と申すのは検査した歯牙数に対し C_1 がどの位の割合で C_3 がどの位の割合かを表す指数です。

その結果は第2図に示す如く2才男で C_1 の罹患率は、検査歯数2495に対し8.58 \pm 0.861ですが C_3 は2.05 \pm 0.282で明らかに2才男のムシバには治療の可能な C_1 が治療不能の C_3 より4倍もある事が分りました。それが6才男でこの關係を調べると検査歯数854歯に対し C_1 は12.22 \pm 0.177、 C_3 は9.84 \pm 0.14で両者の間の開きは非常に接近して来ています。と云う事は6才になりますと治療不能なムシバが治療出来るムシバと殆んど同じ位になつて来るのです。更にこの

☆

☆

關係を表2及び図2に示す如く各年令に於ける C_1 (1度ムシバ)を1とした時の C_3 の割合を算出してみました。その結果は2才の男で C_1 と C_3 の比は1:0.24ですが6才男ではこの關係は1:0.77となり、つまり治療の出来ないムシバは6才では2才の時の3倍になつてしまします。

●むすび

以上私は6才未満の各年令にわたつたムシバの C_1 と C_3 の罹患の割合を調査した結果、治療不能のムシバが年令を増すに従つてふえてゐることを発見しました。これは低年令層に於ていかにムシバの進行速度が早いかと云ふ事を表すと共に低年令層に於ける口腔検査が偉大な意義があるかと云う事を立証するものと信じます。

☆

兩親から見た理想の保育者

—理想的保育者の資質に関する研究—(1)

頌榮短期大学 西 本 脩

問 題

幼稚園、保育所は、幼児の人格形式にとつては家庭に次いで重要な環境である。殊にその社会的、情緒的発達と云う点では、家庭よりも重要な意義を持つている。幼稚園、保育所に於て最も重要なものは遊具や教具ではなく保育者（幼稚園教諭、保育所保母を云う。以下同じ）である。保育者の幼児に及ぼす影響は極めて重要であり

その性格や人柄は直ちに幼児に反映する。我々は、幼児がある先生の組ではのびのびと楽しそうにしているが、他の先生の組ではおじくした態度になり、思うこともろくく云えないで、ちじかんでしまふと云う例を歴々見聞きしている。実に保育者こそは家庭に於ける親に次いで、幼児の行動や性格に最も大きな影響を与える力を持つものである。

幼児の為に良い環境を与え、最も望ましい保育を行う為には色々な条件が挙げられるけれども、それらの条件の中で最も重要なものは保育者である。たとえどんなにその幼稚園、保育所の自然的環境

がよく、その設備が完備されていたとしても、保育者が良くなければ、保育の効果을期待する事は出来ない。又之に反して、良い保育者を得ることが出来るならば、たとえさほど良い自然的環境に恵まれていなくとも、或はその設備が充分に整っていないくても、これらの欠点を補つて、立派な保育をする事が出来るのである。従つて良い保育を行う為には、良い保育者を得る事が何よりも先ず必要である。そこで一休良い保育者とはどんな保育者であるかと云う事、即ち理想的保育者の資質が問題になるのである。

理想的保育者の資質を決定する事は、保育者の選択をする側の者にとつては一つの評価の基準となり、これから保育者になろうとする者及び現に保育者として仕事にたずさわつてゐる者にとつては、自分が保育者になる事、又は保育者としての仕事を続ける事が正しいか否かと云う事に対する自己判断の標準となるであらう。又自分がより良い保育者となる為には、どの様な点に改善の必要があるかに就ての指示となり、目標ともなるであらう。

目 的

どんな保育者が良い保育者であるか、どんな保育者が悪い保育者であるか、又どうすれば保育者はより良い保育の効果を上げる事が出来るかを教育心理学的立場から研究し、保育者の養成、保育者の選任、保育者の修養、保育者の活動の規準等に役立て様とするのがこの研究の目的である。

方 法

理想的保育者の資質を決定する方法には宗像誠也氏が指摘される様に、保育の本質から出発する演繹的方法、保育の実際から出発する帰納的方法、古来歴史上に名を残している大教育者から得る歴史的方法等が挙げられる。こゝに報告しようとするものは、帰納的方法によるものである。理想的保育者とされる者の立場によつて必ずしも同じではない。即ち理想の保育者像は幼児の立場から、保育者自身の反省の立場から、監督者たる園長、指導主事等の立場から、更に父兄の立場からも描かれなければならない。こゝには先ず父兄の見た理想の保育者像を問題とする。

調査の対象 この調査を実施した父兄は神戸市立U幼稚園、O幼稚園、H幼稚園、

私立K幼稚園、I幼稚園、尼崎市立A幼稚園、T幼稚園、西宮市私立N幼稚園の合計八園の園児の母親及び父親である。回答者を年齢別、職業別、及び学歴別に示すと、第1表、第2表及び第3表の如くなる。

これらの表で見ると夫々の分布状態から見て、やゝ農家が少な過ぎる嫌いはあるが、その他は大体一般幼稚園々児の両親を代表しているように思われる。従つてその回答の内容は一般父兄の意見を示しているものと考えてよいと思う。

調査項目 質問事項は左の二つである。

(一)、あなたはどんな幼稚園の先生が一ばんよいと思いますか。

(二)、あなたはどんな幼稚園

第 2 表 職 業 別

職業	専門的	事務的	商 業	技術的	半技術的	労仍農業	無 職	不 明	計
人数	34	248	63	19	26	5	3	113	511

第 3 表 学 歴 別

	尋常科卒	高等科卒	中等学校 中退	中等学校 卒	専門学校 中退	専門学校 卒	大 学 中退	大 学 卒	その他 中退	その他 卒	不 明	計
父	18	4	3	43	2	28	0	20	0	3	31	152
母	13	3	9	166	11	38	0	0	0	9	110	359

第4表 良い保育者の条件

	回答者数		能力学識	人格性格	指導	身体外貌	性年令	その他	計
父	152名	実数	29	278	198	17	8	29	559
		%	5.2	49.73	35.4	3.04	1.43	5.2	100.0
		一人当り数	0.19	1.83	1.30	0.11	0.05	0.19	3.68
母	359名	実数	92	713	486	98	17	76	1482
		%	6.21	48.1	32.8	6.61	1.15	5.13	100.0
		一人当り数	0.24	1.98	1.87	0.28	0.04	0.21	4.12
計	511名	実数	121	991	684	115	25	105	2041
		%	5.93	48.55	33.51	5.64	1.22	5.15	100.0
		一人当り数	0.24	1.94	1.34	0.23	0.05	0.21	4.01

第5表 悪い保育者の条件

	回答者数		能力学識	人格性格	指導	身体外貌	性年令	その他	計
父	107名	実数	4	130	82	11	2	0	229
		%	1.75	56.8	35.8	4.81	0.87	0.0	100.0
		一人当り数	0.04	1.22	0.77	0.10	0.02	0.0	2.15
母	249名	実数	7	255	211	36	5	12	526
		%	1.33	48.48	40.1	6.85	0.95	2.29	100.0
		一人当り数	0.33	1.02	0.85	0.14	0.02	0.05	2.11
計	356名	実数	11	385	293	47	7	12	755
		%	1.43	50.99	38.85	6.22	0.93	1.59	100.0
		一人当り数	0.03	1.08	0.82	0.13	0.02	0.03	2.11

の先生が一ばんよくない
と思いますか

尚答を暗示しない為に選
択式回答法をとらず自由記
述法によることにした。回
答者の記名は自由とし、他
に回答者の年齢、性別、園
児との続柄、学歴、家庭の
職業を記入して貰った。

資料の蒐集方法 園児の
両親の意見を明らかにする
為に、前記の各幼稚園を通
じて、合計九百名の父兄に
質問票を送つて回答を依頼
したのであるが、回答され
た質問票は記入不備の三六
を除き、五一一名でその回
答率は五六・八%である。

調査期間 昭和二十八年
四月上旬—五月中旬

結果の概要

回答の中には、先生に対
する希望等書いたものや記

入不備のものがあつたが、これらは除き、正しく記入されたもののみを選び集計した。両親が良い先生の条件及び良くない先生の条件として挙げたものは非常に多種多様であつて、之を如何に分類整理するかは可なり困難であつた。又回答には色々な組合せがあつて例えば「やさしい中にもきびしさのある」と云つたものは、その全体として一つの感じを現わすのであるが、この様な組合せを考慮すると無数の結果を示さねばならないので、一応すべてを分析し、大体語意の似たものを集めた。そして大雑把に分類して見ると左の六項目になるこの分類は勿論便宜的なものではあるが、然し之によつて大体の傾向はうかがわれる。

第6表 よい先生の条件 (能力学識に関するもの)

条 件	父	母	合計	順位
教養のある、常識がある	4	22	26	1
子供の要求個性等を見きわめる力	6	16	22	2
研究的	3	14	17	3
遊びながら指導がよくできる	5	9	14	4
音楽、お話等が上手	2	11	13	5
有資格者、大学へいつた	2	8	10	6
いろ／＼の専門知識がある	3	4	7	7
子供に感化させる力	1	5	6	8
幼児教育の理解がある	3	4	7	9
その他(三種)	1	2	3	10
合 計	29	92	121	

- A、能力、学識に関するもの
 B、人格、性格に関するもの
 C、指導(保育態度)に関するもの
 D、身体、外貌、言語に関するもの
 E、性、年齢に関するもの
 F、その他

今以上の分類に従つて、結果を簡単に概観して見よう。

一、良い先生の条件について

父兄が良い先生の条件として挙げたものの頻数及びその一人当りの平均頻数を示すと第4表の如くである。

これによつて見るならば、

1、全体を通じて見ると、全回答者五十一名が良い先生の条件として挙げたものは、全部で二〇四一で、一人平均四つずつ挙げたことになる。

2、その内容については「人格・性格に関する条件」が全体の四八・五%を占めて最も多く、次いで「指導関係」が三三・五%で第二

第7表 よくない先生の条件 (能力学識に関するもの)

条 件	父	母	合計	順位
研究心のない	1	2	3	1
幼児教育を理解してゐない	2	1	3	2
教養のない	1	3	4	3
その他(三種)	0	3	3	4
合 計	4	7	11	

第8表 よい先生の条件
(人格性格に関するもの)

条件	件	父	母	合計	順位
明朗快活な、ほがらかな	27	45	102	147	1
やさしい、叱らない	17	89	102	191	2
子供を愛する、愛情のある	13	80	93	173	3
子供好き	16	45	61	106	4
熱心な	15	58	73	131	5
子供から親しまれる	13	48	61	109	6
きびしい、やさしすぎない	15	6	21	36	7
親心のある	11	8	19	38	8
親切な	16	37	53	89	9
人格圓滿な	7	29	36	65	10
感情に走らない	4	25	29	54	11
忍耐強い	11	14	25	40	12
真面目な	7	17	24	41	13
寛大な	3	22	24	46	14
おとなしい	8	15	21	36	15
あたたかみのある	6	16	21	37	16
信頼される	5	17	17	34	17
保育者としての誇りをもつ使命感のある	5	17	17	34	17
知性的、理知的	5	13	18	31	18
注意深い	2	9	11	20	19
責任感の強い	4	9	13	22	20
情緒豊かな	3	9	13	22	20
その他(三一種)	35	116	99	215	21
合計	278	713	991	20	20

第9表 よくない先生の条件
(人格性格に関するもの)

条件	件	父	母	合計	順位
感情的な(お天気屋、ヒステリー)	11	25	47	72	1
短気、かんしゃくもち	7	11	18	29	2
暗い感じ(陰気)	7	11	18	29	2
職業的な	7	11	18	29	2
損得にこだわる(物慾)	4	7	13	20	3
冷淡な	5	4	16	21	4
子供を好かない	3	5	16	21	4
熱意のない	5	3	16	21	4
派手好き、虚栄心	1	11	9	20	5
利己的な	6	7	12	19	6
感情を表に現わす	5	5	12	17	7
陰日向のある(要領を使う)	5	5	12	17	7
物事を面倒がる	4	4	9	13	8
子供がなつかない	4	4	9	13	8
責任感のない	2	3	6	9	9
上役、父兄の気嫌とりをする	3	3	6	9	9
怠惰な先生	2	3	5	8	10
子供からこわがられる	1	3	5	8	10
下品な	1	3	5	8	10
忍耐力のない	1	3	5	8	10
その他(三一種)	24	58	82	17	17
合計	130	255	385	17	17

位、続いて「能力学識関係」「身体外貌関係」「性年齢関係」の順になつてゐる。

3、父親と母親を比較すると、一人当りの平均頻数はほぼ同じである。

4、その内容について見ると、父親では「人格、性格に関する条件が最も多く、以下「指導関係」「能力、学識関係」「身体、外貌関係」「性、年齢関係」の順であるが、母親では、同じく「人格、性格関係」が首位を占め、以下「指導」「身体、外貌」「能力、学識」「性、年齢」の順になつてゐる。

5、特に注目すべきことは、その多を比較して見た場合、「人格、性格」及び「指導」については父親の方が母親よりやゝ多く、「能力、学識」「身体外貌」については母親の方がより多く挙げていることである。即ち4の結果と考え合せて、母親の方が父親より身体外貌関係の条件を重視している事が分る。

二、良くない先生の条件について

「問二」の回答の中には、「問一、の反対」或は「前記の反対」等とあるだけで、その具体的内容については何も書かれていないものや無記入のものが多かつた。これらは除き、具体的に記入されたもののみを選んだ。その為に、「問二」の回答数に比べて大分少なくなつてゐる。良くない先生の条件として記入されたものの頻数及び一人当りの平均頻数を示せば第5表の如くなる。

この表を通して見ると

1、全体を通じて見た場合、全回答者三五六名が良くない先生の条件として挙げたものは、全部で七五五で、一人平均二・一二ずつ挙

第10表 よ い 先 生 の 条 件
(指導に関するもの)

合 計		条 件																				順位
		子供の個性を見きわめ個別的指導をする																				
		子供をよく理解する																				
		子供と一緒に遊ぶ																				
		子供の心になりきれる																				
		世話がゆきとどく注意深い指導をする																				
		父兄等と協力する																				
		子供の性格を善導する																				
		賞罰を正しくする																				
		のびのびとした指導をする																				
		よい習慣のしつけをする																				
		子供をよく把握する																				
		子供の健康に注意する																				
		子供を集団生活になれさせる指導をする																				
		子供の心を傷つけない																				
		きびしすぎない、叱りすぎない																				
		自発性を伸す、独立心を養う																				
		子供に善悪を教える																				
		子供相応の常識を教える																				
		規則正しい生活を教える																				
		その他（二四種）																				
198	19 3 2 5 3 2 3 4 3 4 3 7 5 9 3 7 15 11 23 29 38	父																				
486	41 2 4 3 5 7 7 6 7 6 14 10 12 13 21 20 28 40 58 65 117	母																				
684	60 5 6 8 8 9 10 10 10 10 17 17 17 22 24 27 43 51 81 94 155	合計																				
	20 19 17 17 16 12 12 12 12 9 9 9 8 7 6 5 4 3 2 1	順位																				

第11表 よくない先生の条件
(指導に関するもの)

条 件		不公平な、えこひいきをする きびしい、口やかましい、きつく叱る 子供を理解しない 自分の型に子供をはめる 子供を甘やかす 雑な取扱いをする 特定の子供のみを活動させる 子供を束縛する 恐怖心を使つてしつけをする 子供の虚栄心を刺戟する 子供を卑屈にする その他（一二種）															
合 計		8	1	0	1	2	0	4	3	4	16	14	29	父			
	211	16	2	3	3	2	4	2	6	13	20	34	106	母			
	298	24	3	3	4	4	4	6	9	17	36	48	135	合計			
		10	10	7	7	7	6	5	4	3	2	1	順位				

けたことになる。之は良い先生の条件数に比して少ないが、回答者が書きにくかつたことと「一の反対」「前記の反対」と簡単に書いてその具体的条件を一々書く手段を省いたことによるものであろう。

2、その内容については、「人格性格関係」が全体の五一・〇%を占めて最も多く、「指導関係」が三八・九%で之に次ぎ、以下「身体外貌関係」「能力学識関係」「性年齢関係」の順になつてゐる。

3、父親と母親を比較すると、一人当りの平均条件数は殆ど同数である。

4、その内容についても、数値は異なるが、父親と母親が大体同じ傾向を示している。

第12表 よい先生の条件
(身体外貌言語に関するもの)

条 件		健康な身体をもつ 容姿端正、清潔な 言葉使いが正しいきれいだやか 美しい、きれいな（容貌） 体まない 美しい音声							
合 計		17	0	0	1	3	4	9	父
		98	2	4	2	12	15	63	母
		115	2	4	3	15	19	72	合計
			6	4	5	3	2	1	順位

以上は良い先生の条件及び良くない先生の条件について概括的に見たのであるが、次にこの両条件について、各項目毎にその具体的内容を見ることとする。

A、能力、学識に関する条件について

能力、学識に関する回答数は良い先生の条件としては全体の五・九三%、良くない先生の条件では全体の一・四六%であつて人格性格及び指導に関するものに比してずつと少ない。この項目に属する条件を、良い先生及び良くない先生について頻数の多いものから挙げると第6表及び第7表の通りである。これによると「教養の有無」「常識の有無」「研究的であるか否か」「子供をよく理解出来る能力の有無」等が主な条件として挙げられている。父兄は只保育上の知識や技術にすぐれているばかりでなく、もつと広い教養、常識をもつた先生、研究的な先生、子供に対する観察力のある先生を望んでいる。

B、人格、性格に関する条件について

第13表 よくない先生の条件
(身体, 外貌, 言語)

条件	件数	父	母	合計	順位
健康でない	2	1	1	2	
華美な服装をする	3	1	2	3	
お化粧の濃い	8	2	6	8	
言葉使いのきかない	11	7	4	11	
方言を話す	4	2	2	4	
服装のだらしない	5	3	2	5	
不潔な	6	3	3	6	
音痴	1	0	1	1	
合計	47	22	25	47	

六項目の中で最も多いこの項目に属する回答はよい先生の条件全体の四八・五％、良くない先生の全条件の五一・〇％を占め、何れも全条件の約半数を占めている。その内容は第8表及び第9表の如くである。

これによると「明朗な」先生、「やさしい」先生、「子供が好きで子供を愛する」先生「熱心な」先生が良いとされ、これに対して「感情的な先生、ヒステリックな先生」「気短かな」先生、「暗い感じ」の先生、「職業的でおさなりの保育しかない不熱心な」先生、「父兄からの贈物等にこだわる」先生、「冷い感じ」の先生、「子供を好かない先生」等は良くないとされている。

C、指導(保育態度)に関する条件について
これは良い先生の条件、良くない先生の条件について、それぞれ全体の三三・五％、三八・九％を占め、人格性格に関する条件に次

第15表 よくない先生の条件
(性年令に関するものおよび其の他)

条件	件数	父	母	合計	順位
若い先生	2	0	2	2	
年のいった	3	2	1	3	
よく休む先生	4	2	2	4	
信仰のない	3	1	2	3	
その他(五種)	7	2	5	7	
合計	12	5	7	12	

第14表 よい先生の条件
(性年令に関するもの)

条件	件数	父	母	合計	順位
若い先生	3	1	2	3	
女の先生	4	2	2	4	
年いった先生(年輩者)	7	3	4	7	
未婚の先生	10	6	4	10	
合計	25	12	13	25	

いで多い。その内容は第10表及び第11表のようである。
この項目の中で最も多いのは「公平、不公平」と云う事である。「すべての子供に公平無私な態度で接する」先生を良いとする者は一五五名で、これだけで「能力学識」「身体、外貌」「性年令」の各項目の何れよりも多くなっている。如何に父兄達が先生の「公平無私な態度」を求めているかが、これによつても明らかであろう。

第16表 よい先生の条件
(その他)

条 件	父	母	合計	順位
経験年数の多い先生	8	20	28	2
自分の子供を育てたことのある先生	9	20	29	1
信仰をもつた	5	14	19	3
家庭のよい	4	10	14	4
園児と同年令の子供をもつ母	1	3	4	5
小学校の経験者	0	2	2	6
その他(五種)	1	4	5	
合 計	29	76	105	

その他「子供の個性を見きわめて個別的に指導する」先生、「子供をよく理解する」先生が良いとされ、「父兄の地位等で子供を区別」したり、「顔や感情でえこひいきをする」先生、「子供を自分の型にはめようとする」先生、「子供を理解しない」先生、「ひどく叱つたり、いつも口やかましく言う」先生は不適当とされている。

D、身体、外貌、言語に関する条件について

この項目に入れられる条件は、よい先生の全条件の五・六四％、良くない先生の全条件の六・二三％で、全体として余り多くはない。その内容は第12表及び第13表に示す通りである。「健康な」先生、「服装などがさつぱりして人に好感を与える」先生、「言葉使いの正しい、美しい、おだやかな」先生が好まれているのに対し、「体の丈夫でない」先生「服装が派手すぎたり、或はだらしなかつたり、お化粧が濃すぎる」先生、「言葉使いのきたない」先生は嫌われている。

E、性、年齢に関する条件について

この項目に属する条件は全体的に見れば極く僅かであり、又その内容も第14表及び第15表に示されている様に、まちまちである。「若い先生」を良いとする者も良くないとする者もあると云う様に、従つて年齢に関しては、父兄は若い先生を望むか年いつた先生を望むかどうかとも云えない。性については「女の先生」を良いとしたものはいたが、「男の先生」を挙げた者はなかつた。

F、その他(第15表、第16表)

これについては「育児の経験がある母親」としての先生、「経験年数の多い」先生、「信仰を持った」先生、「よい家庭」の先生等が良いとされ、「よく休む」先生「信仰のない」先生は感心しないとされている。

要 約

以上の結果を要約すると、
(1)、全般を通じて見た場合、父親と母親とは大体同じ意見を持つてゐる。故に両者を一括して、両親の意見とする事が出来る。

(2)、両親は良い先生の条件としても、良くない先生の条件としても共に、身体・外貌・性・年齢の様な外面的、表面的なものよりも、明朗さ、やさしさ、愛情、熱心さ等の内面的な人格・性格的な条件を最も重要視している。

(3)、人格、性格的な条件と共に、保育に対する態度を重く見ている。中でも、子供達を公平に扱つてゐるかどうかと云う事には非常に注意を払つてゐる。遊戯会等の行事は云うに及ばず、日常の保育に於

でも保育者は余程この点注意をしなければならない。

(4)、各項目共、その項目に属する条件を頻数の多いものから挙げると、良い保育者の条件と良くない保育者の条件とが順位に於てほぼ一致する。即ち良い保育者の条件として重視されているものは、その逆が良くない保育者の条件として矢張り重視されている。

(5)、母親の方が父親よりも身体外貌関係の外面的条件を幾分重要視している。

(6)、両親は唯保育上の知識や技術にすぐれた保育者よりも、もつと広い教養、常識を持つた保育者を望んでいる。

(7)、それと共に、ピアノが上手、絵が上手と云う様な技術的能力に秀でた保育者より、人格円満、明朗と云う様な精神的に健康な保育者を望んでいる。保育者は精神的健康を保つ様努力しなければならない。

8、保育者の年齢に関しては意見がまちまちである。結局若いか年いつているかと云うことはさほど重要な条件ではなく、もつと他の条件(例えば人格、性格、保育態度)によつて、その保育者の良し悪しが決まるのである。

結 語

この度の調査に於ては、園児の父兄の立場から見た良い保育者の条件、及び良くない保育者の条件について考察したのであるが、理想的な保育者の資質を決定するのに、非常に多くの示唆を与えられた。前にも述べた通り理想的保育者の資質を決定する方法は色々あるが、何れも避けることの出来ない欠点を持つていたので、一つの

方法のみによつて一方的に決める事は危険である。我々はその何れの方法にも偏せず、それぞれの立場から得られた資料を参考として総合的に考察しなければならない。こゝには唯その為の一資料を提供したに過ぎないのであつて、両親の意見から直ちに理想的保育者の資質を云々することは差しひかえない。今後更に他の方法によつても、この研究を続けたいと思つてゐる。

我々は勿論完全な理想の保育者になる事は出来ないであらう。然し幼児の幸福を願うものとしては、我々は理想の保育者にならうとして一歩でも之に近づく努力、修養を怠つてはならないであらう。

☆この研究の資料を提供された各幼稚園の父兄各位に深甚なる謝意を表します。お子様の御幸福を心からお祈りいたします。仲介の勞をとられました各幼稚園の園長、教諭諸兄姉に厚く御礼申し上げます。

(参考文献)

- 1、西本脩 保育者の精神衛生(一)——保育者の悩みについての調査——「幼児の教育」第五十一巻第九号
- 2、宗像誠也 教師の心理 岩波講座「教育科学」第二冊
- 3、石谷信保 理想の教師 岩波講座「教育科学」第二冊

子供は両親に何を与えるか

——ボツサードの研究を中心として——

大阪学芸大学

小 川 正 通

一、序

家族という形態は、歴々第一次的集団ともいわれ、人間の歴史とともに古い。その構造・機能は、時代・社会によつて変遷・相違があり、構成メンバーや機能は、縮小化の傾向を辿っているが、今日の文化社会においても、依然として家族は、その基礎的単位として存続しており、なお将来とても継続することであろう。

われわれは家族のうちに、子供として生れ、親に養われ、生活し、やがて新しい家族を形成し、子供を産み育てて、家族のうちに死んでいくのである。家族は血縁的・運命的、緊密な小共同体であつて、その中で子供は、家族の未来を担っている。ヘーゲルにあつては、「子供は家族の最高の全体性を現わし、自然的人倫の段階においての絶対者・永遠なるもの」であり、ゲゼルは「子供は人間史の結論でもあり序文でもある」と述べている。わが国は古来「まされる宝子にしかめやも」の愛育の伝統をもつといわれ、親はわが子に

対して、盲目的な愛情を暗示しがちであつた。それはとにかくとして、或る学者は「未婚の人は1/3の生活、結婚した人は2/3の生活、子供をもつて初めて3/3即ち完全な生活」と説いている。

さて、「親が子供に与える影響」については、既に相当の業績が見られるが、「子供が親に与えるもの」而も「子供を中心とした子供の親への影響」に関する研究は、なお不十分のようである。——わが国の俗言では、「子をもつて知る親の恩」とか「子はかすがい」等といっているが、この未開拓な分野を切り開いた研究として、ベンシルベニア大学の社会学教授ボツサードの「児童発達の社会学」(Bosard, The sociology of child Development 1948)中の一章をあげ、その大略に多少私見をも加えて、解説を試みたいと思う。この種研究の立ちおくれの理由としては、彼自身も大人の自己中心的主観的態度によると、指摘している。

一、子供が親に与える特殊的(個別的)影響

(1) 子供の特徴——男子の誕生を願つて男が生れたか、或は希望しない結果となつたか。両親・祖父母の誰に似ているか。心身の發育がノーマルであるか、すぐれているか、おとつているか等。(2)

親としての心がまえ・準備如何——両親が二〇才未満の若い時と中年を過ぎてからとでは生れた子に対する態度が違ふ。養育するわが子よりも情緒的に未成熟な親さえなくはない。また種々の養育的・経済的準備の未だ整わない親もあり、子供の数こそ問題であらう。

(3) 社会・経済的条件の反映——子供の誕生を歓迎する社会、産めよふやせよの時代と産児制限を必要とする社会・時代とは、子の誕生に対する親の態度も自から違つてくる。幼児殺しの慣習をもつ原始民族もある。「子宝」思想のあるわが国では、多子家族のうちにも、「一ひめ二太郎」といわれた。その「一ひめ」は或は育てのテストであり、次の「太郎」こそ伝統的な家の後継者として、最も祝福されたのであらう。女子の母性本能についても疑義があり、子供への親の関心は、大部分が子の出生後に起る。(4) 可変的ダイナミックな性格——この種研究を困難とさせている一因でもあるが、親子関係は相対的であり、可變的・發展的過程であつて、従つてそのうちに、親子ともにパーソナリティーは、変化・發展し得る。親の子供に対する態度も、必ずしもコンスタントとはいえない。ひどく喜ばれた子供が二、三年後には、好まれなくなつたり、初め怒りつばかつた親が子を溺愛するようになる。

三、子供が親に与える一般的(共通的)影響

子供の誕生が人員の増加のみでなく、人間関係、家族内の相互作用

用の範囲と複雑さを増すのは当然であり、社会学的見地からの根本問題である。

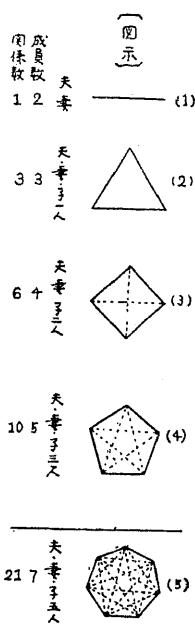
(一) 家族の相互作用の法則

家族の成員数と成員間の相互作用は、数学的法則で示される、即ち各家族のうちに、数学的二つの変数が想定され、その一つは家族の成員数、他は成員間の人間関係の数であり、家族集団に新しい成員が参加する時、次の如き法則が成立する。

〔法則〕 家族集団に一人が加わつた場合に、成員の増加は、算術級数的であるが、人間関係の増大は、三角級的である。

〔公式〕
$$X = \frac{Y^2 - Y}{2} \quad \text{成員数 } Y \dots 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8$$

〔例〕 $10 = \frac{25 - 5}{2}$ 人間関係数 $X \dots 1, 3, 6, 10, 15, 21, 28, \dots$



(二) 法則の説明

(1) 人間関係の増加は、成員のそれを上まわり、家族集団が大きいはど、不均衡が激しくなる。幼児にとつては、中位の大きさ五—六人家族でも、関係数は一〇—一五だから、相当複雑である。一

人子の際の弟妹の誕生は、関係数の急増となり、また祖父母や使用人等の新参加は、関係に質的变化をも加え、所謂「親子水入らず」でなくなり、新環境への順応を困難にし、子供に神経障害を起させることもなくはない。「年寄育ちは三文安」は、この意味からも解される。(2)逆に、家族成員の喪失は、相互作用過程の激減となるが、小家族の場合とくに問題である。即ち四人家族の一人減は、関係数六から三(1/2)減、三人家族の一人減は、三から一(2/3)の減少となる。親の死亡、応召、離婚等は、とくに家族への影響が大きい。(3)昔の大家族制の検討に役立つ。昔ローマのクインティリアンは、「人間性の探求には、一つの家族で十分な大きさだ」といつたが、故あることである。一世紀前のアメリカでも、祖父母・おじ・おば・いとこ等を家族のうちに含み、関係数四五の一〇人家族が決して稀でなかった。然し大家族の人間関係の複雑さにたえきれず家出した人、職業選択が家族数と関係ありと認められるものもなくはない。(4)今日の典型的な家族は、アメリカで四人家族・人間関係六であり(わが国では一世帯当り約五人・関係数約一〇)一世紀以前と比較して、関係数に大差を認めざるを得ない。小家族への変化は、家族生活全般に革命的影響を及ぼし、子供の社会化、家族成員の社会情緒の安心感、青年の政治的活動への要求等も、これと関係ありといわれている。(5)子女の増加に伴い、家族生活内の社会的経験は拡大しても、それに応じた親密関係が拡張されるとは限らない。子供の誕生が或る家族に対し、生活の豊かさを保障しても、他の家族には、親和的包容力の限界に突き当らせ、経済的困窮に陥らせ、生活の崩壊へと導く。(6)数学的公式としてのこの法

則も、厳密には数学的正確さを示さない。元来、人間関係は量的・質的両面に亘つており、数学的公式で律するには、余りに多様多次元的であるからである。従つてこの法則も、家族生活の複雑な過程の近似値、成員数に基づく家族関係移動の一般的比率を示すに過ぎない。

四、子供が親に与える一般的(共通的)影響(続き)

(三) 家族への関心の拡大

子の誕生は、親をして家族への関心を発展させる。一般に第一児の誕生は、親が前に考え及ばなかつた事象に注意を向けさせ、或は考えていたとしても、新しい意味を賦与する。第一は、家庭経済に關してであり、父親は己の職業に真剣味を加え、経済上の長期計画の想を練り、従来無視した生命保険へ加入し、住宅に關する野心も盛んとなる。また地域社会への関心増大し、とくに子女の教育的環境としての適否を吟味するに至る。ここで所謂「基地の子」の現況や「孟母三遷」の故事に思い當る。もつとも英のラッセルは、「子供のないうち多くの人々は、公共的精神に満ちているが、一度子をもつと、家族の福祉にのみ没頭してしまう」と、極端な家庭個人主義的傾向に対し警告を発している。わが国でも「子孫のために美田を買わず」との教えがある。然しボッサードによれば、「あとは野となれ山となれ」という如きは、皮肉な独身男の思想で、決して親のノーマルな感情ではあり得ないと。

(四) 長期に互る情緒的満足と再生の機会

親に生命の連続に対する情緒的満足感を与える。即ち子供の成長

発達への永続的関心を供し、未来への希望に生きらせ、その意味で親を幸福感にひたらせるからである。とくに親が老境に入った時、然りであろう。階級移動・一攫千金の機会に恵まれたアメリカと封建的家族制度下の立身出世主義のわが国とは、この点では大差がないのかも知れない。親は子供の生れる前から、或は男或は女と期待するばかりでなく、さらに自己の再びもどらぬ人生の失敗を、子にとりもどさんと望み、所謂「見果てぬ夢」をわが子に見ようとす。その実、青年期の子と親とは、歴々ジエネレーションの断層の兩岸に立つているのではあるまいか。

(五) 子供（人間発達）への支配

人間の子供は、動物の仔と比較する時、幼児期は長く、無力で親に依存せざるを得ない。——それだけ陶治性が大きいのだが、従つて乳幼児は親に全面的支配権を譲渡している。ここに親の権力意志は、十分に満足されている筈である。とくに家族を国家に直結し、子供を人格として尊敬しない全体主義国家では、親の立場は愈々独裁的・圧倒的となる。幼児自身は、僅かに、自己の意のままになる人形・玩具・小動物において、権力意志を満すに過ぎない。それに反して、親は家庭外で受けた圧迫を、帰宅後屢々子供に對し爆發させ、うつ憤をわが子において補償する。ここで親権が問題となるのだが、親の特権はまた親の自己反省への転機ともなる。子供の言行が「親を映す鏡」であり、道徳的価値判断が自己に依存することに驚き、所謂「負うた子に教えられる」ことも少なくない。かくて親たる責任の自覚、人間性発展へと誘導する機会となる。

(六) 生命過程及び人生の意味への洞察

人間の成長発達の過程は、自己においてでなく、つとめれば、わが子において比較的容易に、客観的に觀察・理解される。科学者にとつては、とくに絶好の機会であつて、その結果による学問への寄与も決して少なくない。また愛が愛に呼応する真実の親子關係を通して、自己の使命、(人間存在) 人生の意義を把握し、所謂安心立命の境地へも導くのではあるまいか。

五、むすび

以上、家族の発展に子供が果たす役割、即ち親へのプラスの面に重点を置いて種々述べてきた。然しマイナスの面については、必ずしも論議がつくされていないし、さらにそれ等は、子供の発達段階別にも検討さるべきであろう。もとより家族の制度・内容、文化的・社会経済的背景・条件を異にするわが国、とくに戦後の今日においては、親子關係の緊張・錯雜は甚だしく、「まなかいにもとなかりてやすいしなさぬ」愛児が、親に對し日々多くの心配を与えている。従つてこれらの事情に關し、徹底的な研究・調査が要請される。けんきよな立場では、われわれは今日でもルッソーとともに、「子供というものを少しも理解していない」といえるのであるから「親の喜びは秘密であり、同様に悲しみも怖れも秘密である」とは、ペイコンの言葉である。然しこの秘密の扉を人間形成・人間理解への一助として、子供中心の立場から、是非開いていきたいと考えるものである。

私立幼稚園に於ける健康管理の一形態

栄光幼稚園

日 名 子 太 郎

学校教育において健康教育の占める部分は可成り大きいものである。しかし教育体系の内で幼稚園程この役割の大きいものはないであらう。

それにも拘らず今日一年一回の定期身体検査すら充分に行われていない状態である。

幼稚園の健康教育の目的は幼児を常に疾病から守り、健康・安全・幸福な生活、子供達にとつて初めての団体生活を健全に行わしめるにある。

それには、家庭の協力の下に、幼児は勿論保護者もその対象に含め、絶えざる管理を行つて初めて為し得るのである。

本園ではこの点に着目し、此処三年来、各科医師の援助協力の下に、この種の管理を行つて来たので、その形態並びに結果につき報告申上げる次第である。

一、 方 法

今迄は、特に診療室を設ける程の余裕を持たなかつたので、附近の理解ある医師の協力を求め、毎月のカリキュラムと照合の上、医師の来園を仰ぎ検査を行つて来た。

内 科……毎月一回

ツベルクリン 年二回

レントゲン撮影（ ）（ ）

検 便（ ）（ ）

眼 科……毎月一回

耳鼻咽喉科……学期 毎

歯 科……毎年一回

身体計測……毎月一回

右各検査の前日又は前々日には必ず保護者へその旨の通知をし、出来る限り、欠席の無い様、又医師に特に相談の必要のある父兄はその時間に来園の上、医師と相談を行う様にして居る。「検査の結果は、第一図の如き用紙に記入の上、家庭に通知し治療の要あ

るものは出来る限り早期に治療する様に勧告する」。

お知らせ

月の検査の結果は左の通りですから
お宅でも治療に御協力下さい。

氏名

項目	病名	治療
内科	扁桃腺肥大	要 不要
耳鼻科	扁桃腺肥大	要 不要
眼科	結膜炎	要 不要

月 日
栄光幼稚園

のは、この管理に必要な経費の点である。

私立では、特に経営面の問題もあるので、理想と現実の矛盾は此
処でも当然考えられるのであるが、本園で実施した結果から見れば
この点は、余り懸念するに当たらない。

本園の経費処理の方法は、PTAと協力して、予めPTAの予算
案中に「医師謝礼」の項を設け、診療の都度お礼をする様に居
る。今後は保健費を設け（月額約五〇円程度）更に徹底を期したい
と存じて居ります。

荷、ツベルクリン、レントゲン、その他の予防接種はその都度実

第一図 家庭連絡結果検査

二、処理

本園の台帳にも
洩れなく記載し、
（第二図）各科の
診療時に、医師は
常にどの科にも目
を通し、参考と為
し得る様、整理し
てある。

三、経費

以上述べた方法
で最も問題となる

費を徴集する。

四、統計の結果

本園に於ける管理の結果を最近二カ年間分につき整理したもの
第一、二表である。

統計の結果は、年間を四つの時期、即ち、

- 1 入園時
- 2 夏の休み前
- 3 夏の休み後
- 4 終了時

に分け、その時期における各科の診療の結果を被実施者（在籍者数
から欠席者数を減じたもの）に対する百分率で表わした。

これによると、

(一) トラコーマは昭和二十六年、二十七年、二十八年に於いて完全
に消滅し、その後は発見されていない、又その他の眼疾も前は
ど悪質のものは無くなつて来ている。（この間、同一の医師に
よる）

(二) 扁桃腺肥大とアデノイドの両方をもつ者が可成多く、一方の
みのものは僅か十パーセント程度である。しかし、これらの保
有率は意外に多く、昭和二十六年、二十七年、二十八年、二十九年、三十
年に比し二―三倍に上つて居る。

しかしながら、一方これらが差程大きく影響しないと信じら
れる一つの資料として、第三、四表を提出する。

第三表は、最近二年間の本園の精勤者（欠席年間八日以内）

第二図 健康管理原簿用紙 (1/2)

姓 名		() 歳 (昭和 年 月 日生)		項 目		身 長		体 重		胸 囲		眼 科		耳 咽 喉 科		鼻 科		内 科		ツ 反 応	
月	日	4																			
		5																			
		6																			
		7																			
		8																			
		9																			
		10																			
		11																			
		12																			
		1																			
		2																			
		3																			

につき、各科の結果を集計したもので、二カ年間を通じ、十九名中八名(四二%)は扁肥又はアデの何れかを有している。
 第四表は欠席の多い者(欠席日数年間四十日以上)につき、集計したもので、これによると十四名中六名(四三%)が扁肥

(表)

年 月 日		乳 法																処 置		未 処 置		合 計	
上	右	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	上	下	計	計	計	計
		E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	上	下										
下	左	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	下	計	計	計	計	計
		E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	上	下										
		8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8						

予 防 接 種	X ~ Ray 所 見	医 師 より の 指 示

又はアデの何れかを有しているわけで、両者殆んどその保有率は同一である。
 (三) 内科では、頸部リンパ腺腫脹が意外に多くこれにつき、第三四表によると、

(裏)

時 期	段 階	入 園				夏 の 休 みの 前				夏 の 休 みの 後				修 了			
		一 年 保 育	二 年 保 育	三 年 保 育	全 体	一 年 保 育	二 年 保 育	三 年 保 育	全 体	一 年 保 育	二 年 保 育	三 年 保 育	全 体	一 年 保 育	二 年 保 育	三 年 保 育	全 体
眼 科	結 膜 炎	5%	0%	0%	3.3%	2.3%	0%	0%	1.7%	5.6%	0%	3.5%	3.5%	3.5%	0%	0%	2.2%
	ト ラ コ ー ヲ	12.5	28	0	13.3	2.3	2.1	0	6.7	1.9	9	30	7	0	0	30	3.3
耳 科	慢性副鼻腔炎	7.5	31	20	13.3	7.1	20.0	40	13.4	—	—	—	—	3.5	21.7	30	11.1
	扁桃腺肥大	35	31	80	36.6	47.6	28.5	40	43.4	—	—	—	—	40.3	61	60	47.8
咽 科	アデノイド	17.5	31	20	20.0	31.0	20.0	0	26.6	—	—	—	—	31.5	48	40	36.7
	耳垢栓塞	7.5	15.4	40	11.7	5.0	20.0	20.0	10.0	—	—	—	—	1.7	9	10	4.4
内 科	その他	2.5	0	0	1.7	5.0	0	0	3.4	—	—	—	—	1.7	0	0	1.1
	頸部淋パ腫腫脹	57.5	54	40	53.3	31	14.2	0	25	24.5	9	0	17.6	22.8	9	0	16.6
科	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.7	21.7	20	9.0
	要 注 意	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	20	15.5
ツベルクリン 反 応	+	—	—	—	—	—	—	—	—	15	9	20	14	—	—	—	—
	-	—	—	—	—	—	—	—	—	1.9	0	0	1.2	—	—	—	—

第 一 表 昭和 26 年 度 栄 光 幼 稚 園 健 康 管 理 統 計

精勤者中「頸部リンパ腫脹のもの」十九名中二名(一〇・五%)
欠席の多いもの 〃 十四名中七名(五〇%)

と大きなひらきを示している。
(四) 栄養要注意又は身体虚弱者も

時 期 段 階 項 目	入			夏			後			修		
	一年 保 育	二年 保 育	三年 保 育	一年 保 育	二年 保 育	三年 保 育	一年 保 育	二年 保 育	三年 保 育	一年 保 育	二年 保 育	三年 保 育
眼												
異常なきもの	% 86	% 90	% 50	% 85.7	% 87.6	% 50	% 86.6	% 94.4	% 96	% 100	% 96	% 87.6
急性結膜炎	4	0	0	2.3	2.2	0	3.0	0	0	0	0	2.5
ロポー性	5	10	50	8.7	5.4	50	10.0	4.4	5	0	4.2	2.5
トラコーマ	2.5	0	0	1.6	7.8	0	0	0	0	0	0	7.5
その他	2.5	0	0	1.6	8.0	0	0	0	0	0	0	9.0
科												
異常なきもの	28.4	40	17	31	2.2		1.7	1.1	0	0	0.8	2.5
慢性副鼻腔炎	14.8	14	17	14.6				47.0	14	45.5	52	64.8
扁桃腺肥大	54.3	60	70	57.0				5.7	40	0	8.1	1.0
アデノイド下	54.3	50	70	53.7				36.3	40	54.5	39.2	20.6
耳垢	4.2	3	0	40				8.4	8	54.5	38.5	44.1
その他	0	0	0	0				2.2	7	0	4.7	6.4
科												
異常なきもの	83.8	75	86	82.4	84.9	74.3	80.9	97.6	80.4	100	92.6	64.8
頸部淋へ膜腫脹	1.2	10	0	3.8	9.3	38.3	10.0	0	8.7	0	2.9	1.0
扁桃腺	2.4	0	0	1.5	0	0	0	0	0	0	0	20.6
ビタミンA.D不足	9.5	5	0	7.6	3.5	0	4.5	1.1	0	0	0.7	44.1
カルシウム	1.2	5	14	3.0	7.4	0	0.8	2.2	0	0	1.5	35.3
その他	10	10	0	10.0	1.1	0	9.4	1.1	0	0	0	62.5
科												
要注	15	15	0	14	13.0	0	9.4	8.7	0	0	2.9	3
ツベルクリン反応	5.1	0	0	10	7.0			10	11	0	10	10.6

第二表 昭和27年度 米光幼稚園健康管理統計

入園時は可成の高率を示したが、当方よりの指示により肝油ビタミン剤その他の補給並びに食改善指導により可成減少を示している。

(四) 以上の結果も、小学校への入学には殆んど影響ないらしく、

精勤者、欠席多きものに共に大体同数入学している(備考らん参照のこと)

五、結果をふりかえつて
未だ統計数が少ない為、結果を医学的に利用すると云つた事は無

(世) 総員 13 名 男子 13 名 女子 0 名 (父服回数 6 日以内)
 記号 51 は 1951 年度、52 は 1952 年度を表わす

記号	性別	欠席日数	眼	科	耳	鼻	咽喉	科	内	科	ツェルツリツェン		I.	Q	備	考
											反内実施年月日	愛育会乙式団体				
511	男	8(0)/523	ナ	シ	ナ	シ	ナ	シ	ナ	シ	26.10.9	124	—	—	学芸大学附属大泉小学校入学	
512	男	7/230	トラコーマ	ナ	シ	ナ	シ	ナ	シ	ナ	ナ	115	—	—		
513	男	0/228	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	ナ	114	—	—		
514	男	5(3)/228	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	ナ	109	—	—	立教小学校入学	
515	男	6/228	ナ	シ	ナ	シ	ナ	シ	ナ	シ	ナ	—	—	—	158	
516	男	7/228	ナ	シ	ナ	シ	ナ	シ	ナ	シ	ナ	—	—	—	116	
521	女	0/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	27.11.5	117	85	—		
522	男	0/231	ナ	シ	ナ	シ	ナ	シ	ナ	シ	ナ	111	111	—		
523	男	2/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	27.11.5	110	73	27.11.	レントゲン異常ナシ	
524	女	4/231	ロホニ性結膜炎後	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	27.4.24	133	111	—		
525	男	5/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	27.11.5	117	110	—		
526	男	5/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	ナ	115	143	—		
527	女	5/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	ナ	130	110	—		
528	男	3/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	ナ	115	116	—		
529	女	6/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	ナ	—	69	—		
5210	男	6/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	ナ	103	99	—		
5211	男	7/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	27.4.24	120	114	—		
5212	女	8/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	27.11.5	113	97	—		
5213	男	8/231	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	シ	ナ	シ	ナ	27.11.5	99	86	27.11.	レントゲン異常ナシ	

第三表 最近ニカ年間精勤者健康状況

理であるが、総合的に見てかかる管理は決して無駄ではなく、可成の効果を表わしたことが統計表より読み取れる。

(註) 療養員14名中 男子6名 女子8名

記号	性別	欠席日数	眼	科	耳鼻咽喉科	内科	ツベルクリン反応判定	ツベルクリン反応実施年月日	I. Q	備	考
511'	女	85/228	ナ	シ	ナ	頸部リンパ腫	/		130	94	お花の水女子大附小入学
512'	女	73	ナ		扁桃腺肥大	ナ	-	26.10.9	-	81	
513'	女	61	ナ		扁桃腺肥大	扁桃腺リンパ腫	+	ナ	115	122	26.10.9 セントゲン右上前職工
514'	女	43	ナ		扁桃腺肥大	ナ	-	ナ	111	90	
515'	男	42	ナ	ト	扁桃腺肥大	頸部リンパ腫 カイセン	-	ナ	-	-	
516'	女	41	ナ		扁桃腺肥大	ナ	-	ナ	-	77	
517'	女	41	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	-	ナ	107	87	豊基大学大泉小学校入学
521'	女	84/151	ナ	シ	扁桃腺肥大	ナ	+	27.11.5	100	103	
522'	男	83/231	ナ		扁桃腺肥大	頸部リンパ腫	/		96	100	
523'	女	67/231	ナ		扁桃腺肥大	ナ	+	27.11.5	110	102	
524'	男	63/231	ナ		扁桃腺肥大	頸部リンパ腫	/		-	132	立教小学校入学
525'	女	58/231	ナ		扁桃腺肥大	頸部リンパ腫	-	27.11.5	120	102	
526'	女	42/231	ナ		扁桃腺肥大	頸部リンパ腫	-	ナ	124	91	
527'	女	42/231	ロボ	性結核	扁桃腺肥大	頸部リンパ腫	+	27.4.24	120	114	26.5 セントゲンナジ

第四表 最近二カ年欠席日数40日以上ノ者ノ健康状況

現在の段階では未だ幼児のみを対照としたが、これでは不十分であくまで家庭を対照とすべきであらう。

又一部の保護者が管理への理解不十分の為伝播のおそれあるものを平気で放置し何度勧告してもこれに応じない事も多く、又一般保護者の衛生への無関心、非常識も恐るべきものがあり寒心すべき状況

態である。この点、成人教育の必要性を痛感せしめられる。

よりよき設備と潤沢な経費は勿論必要である。しかし、設備は不完全でも、又多大の費用を必要としないでも、この程度の健康管理は幼稚園経営者の理解と熱により充分行い得ることが本報告の結論である。

幼児保育と準備教育（要旨）

——司会・山下俊郎——

一、幼児教育のカリキュラムの面から	日本女子大学	村山貞雄
二、幼稚園の立場から	音羽幼稚園	柿内三郎
三、小学校の立場から	成蹊小学校	滑川道夫
四、児童学の立場から	愛育研究所	平井信義
五、幼年教育の立場から	お茶の水女子大学	周郷博

一、幼児教育のカリキュラムの面から

村山貞雄

就学のための準備教育が今日次第にさかんになりつゝありますが、只今山下先生が言われましたように、これについて、可否を考慮可であるとすれば、今後どのようにやつてゆくのがよいか、否であるとすれば、どのような

にしてとりやめるべきか、ということをし、このシンポジウムで話し合うことになると思います。

そこで私は、このシンポジウムの前座として、幼稚園の準備教育というものが、どのようなものであるか、その地位と意味を大づかみに把握して、シンポジウムが展開するための役割を果たして、柿内先生におゆすりしなく思います。

現在おこなわれている準備教育がよいか悪いかというようなことは、ちよつと考えても悪いことがわかつているようで、しかも実際には相当な勢でさかになりつゝあります。

愛育研究所に來る教養相談も九月頃からはじまつて、一月二十日頃までは非常に多く、準備教育のための教育相談は受けつけないとわざ／＼禁止しているにも拘らず、神経質とか何とかに理屈をつけてやつて來、教養相談の大部分は、国立、私立、私立では應応、青山学習院、成城、双葉女子大等の学校の準備教育に関するものであり、しかもその勢は毎年非常に盛んになりつゝあります。このように東京はもとよりのことですが、私はこの一週間あまり、関西に行つておりましたが、やは

りあちらでもかなり盛んです。これには、それだけの理由があるはずですから、単に教育上悪いと言ふだけでは、この問題は解決しません。しかし、教育上非常に悪いのか少し悪いのかということが考えられますと、このことは結論にもかんがりの影響を与へるはずですし、又どういふ点が悪いのか分りますと、今度はそういう点を除いて行ふことができません。

そこで、私は教育学の立場から——題目にはカリキュラムの立場からとなつていますが——まあこのような面を含んだ教育学の立場から、お話ししてみたいと思います。

学校教育について広く考えますと、下級学校は——下級学校というのは、より小さい者の学校という意味ですが、——下級学校は、それ自身で完結を主とする者と上級学校の予備校的角色を果すものに分けられます。大体庶民を入れる学校は完結学校が多く、上流階級を入れる学校は予備校として発達したものが多くありました。たとえば、大学の予科や旧制の高等学校は、予備校の性質を完全に又は相當に持つており、一方、小学校は完結教育でありました。さらに、これを、具体的に

みますと、予備校とは、たとえば大学のようにな上の学校があり、その学校で基礎教育の必要なことから次第に下の方にのびて來たものであり、完結教育は、これと反対に、寺小屋のような低い庶民学校がはじめにあつたのが、庶民の程度が次第に高まつて來たことから、少しづつ上にのびて來たものであります。たとえば、現在の中高等学校は、この兩者の合わざつて出來たものであり、その二重の性格を持つております。現在、わが国の学校制度は完結教育主義をとつておるのでありますが、歴史的にみられる自然の要求は制度によつて変わるのではなく、高等学校をはじめ、学校カリキュラムに上級学校のカリキュラムが非常な影響を与えておるのであります。

そこで幼稚園は、どのような性質を持つてゐるかという点、これは庶民に余裕ができ、幼児期にまで教育ということを考えたという点もありますが、同時に金持が小学校に上るまでに、すでにその準備教育としての基礎教育の必要と可能を考へて生じた特殊教育として成長して來たとみることができ、準備教育的な面を多分に持つております。

實際幼稚保育の中でも、幼稚園教育は、家庭と学校をつなぐ、すなわち家庭から学校へスムーズに進ませるための、緩衝地帯のようなことが大きな目的になっておりまして、小学校に入るための準備教育が行われるのは正しいことであり、私は、幼稚園の先生がもつと小学校というものを考えて、保育をする必要があるのではないかとさえ思います。したがって、後程^{のちほど}でなにかがお話になるかと思いますが、準備教育の大動力となつてゐる、幼稚園にたいする父兄の予備校的な考えは一応正しいと認めざるを得ません。

そこで、更にこの準備教育の内容を考えてみますと、小学校教育のための準備教育と、それから小学校入学のための準備教育に分けて考える必要があります。このうち我が国では、入学難の学校が多いという事情から、後者の方が多くなつており、高等学校などでも、そのカリキュラムは、大学教育の準備というよりも、大学の入学試験に、きわめて左右されている実情です。これはしばしば、非難されますが、しかし無理のないことでありましてたとえば、結婚難の折は、良妻教育と言ひましても、まず結婚のためのいろいろ

の工夫がおこなわれるようなものであります。したがつて、小学校の就学試験の準備教育がさかんになり、幼稚園のカリキュラムの中に、就学試験の内容が含まれてくることは、自然の勢いとして当然であります。ゆえに、このようなカリキュラムを、悪いという前に、あるいは悪いと言ひえても、それを取り去るように実行するのには入学難そのもの又は入学難に附随するものを取り去らねば効果が、非常に少いのであります。

入学難を解消する方法は、第一に、これらの入学難の学校を解消すること、たとえば国立や私立の小学校が抽せん等で、実質上入学難をなくすることが考えられます。このような政策的な入学難の解決法を私は最も望ましく思ひますが、さもなければ、第二に入学難の技術的な解消法として、上級学校である小学校の就学許可人数の総数が就学希望者の総数より少くないことを利用して、幼稚園と父兄の方で適当にやさしい学校に導くのが、改善の策であると主張いたします。

そこで更に考えを進めますと、このようにして入学難が実際に避けられる場合はよろしいが、避けられない場合は、どうすればよい

かということが問題になります。この問題においてまず準備内容、次いで準備方法に分けて考えてみましょう。

小学校の入学試験の内容はどこでもいわゆる素質検査を行つております。簡単に言えば、いわゆるアチーブメント・テストではなく、インテリジェンス・テストであると言へます。したがつて幼稚園で音楽・会話・手技のほかに、保育後又は保育中に知能検査を練習するようになり、これがこのシンポジウムでとりあげられたものであります。

これは、小学校当局は、素質のよい者入学させて爾後の教育に効果をあげようとする意味とともに、幼児保育中に学習で、きぬものを試験内容にしようと考えて、いわゆるメンタルテスト的なものを小学校で就学試験に行おうとしたものでありますから、この考え方には、私は賛成であります。ところが、幼児教育をする先生や父兄の方で、このメンタルテストを、いろいろ種類やつておくと、同一又は似たメンタルテストが出た場合に、知能点があることや、実際の就学テストには、よいメンタルテストを作るつもりでも、故意か無能かに原因して学力結果がかなりあ

らわれる、不純なインテリゼンス・テストが多いことに着目して、そのような内容の知育たとえば簡単な計算などを、カリキュラムに入れる傾向が出て来たのであります。

素質検査である知能検査を学習するというようなことは、上級学校である小学校の方からみますと、親の心を子知らずと言いたくなるものであつて、全く非教育的なものであり、正しくありません。しかしこれらの弊害も、音楽や図画などの現在のカリキュラムの一部、又は全部が就学試験として行われる場合よりはるかによいものであると考えます。

そこで、一層素質検査に徹底したテストを課するのが理想的であります。そのようなよい検査が出来ない場合でも、いろいろな保育内容に課すより、就学試験をする場合、小学校の方で知能検査をおこなうのは、よい方法であると考えて賛成であります。

以上準備教育をやらねばならぬ場合に、その内容として、テストはよい内容であることを述べたのでありますが、更にこの内容のものをいかにやるかという方法について考えてみましょう。

すなわちそれでは、就学試験のテストを保

育カリキュラムにどのように入れるのがよいかということであります。

保育カリキュラムに、テスト的な内容を入れることについて、只今調査中ですが、その教育効果の研究は、まだあきらかな結果が出ておりません。ただ過度に入れた場合に弊害があらわれていますが、生活カリキュラムのなかで、絶えず自ら考えてゆくことや、クイズ的な教育法をとり入れた場合、別に弊害があらわれておりません。しかし、テスト的な内容をカリキュラムに入れて、それで保育の効果をはかるうとしても、その効果は少ないようであります。それで結局その時間を、ほかの保育内容から、うばうことになりましから、消極的に保育効果をさげることになります。

更に、この準備教育は保育中に行う方法のほかに、保育後必要な幼児のみを集めて課外として行う方法があります。或る幼稚園は保育終了後週四日二時間位行つてゐる所もあります。保育後に、一種のエキストラ・カリキュラムとして行う場合は、保育内容を少くすの心配がありませんが、強度に行うと身体面からみて好ましくなく、又幼児期の遊びの時

間を多少うばうことになりましたが、少しずつ行うのでしたら、あまり弊害はあらわれておりません。

しかしこのエキストラカリキュラムに参加しない幼児との間に心理的なまざつが生じる弊害がありますから、この点に気をつけないと、幼児保育に弊害を生じています。昨年は教育相談にやつて来た親のなかで次のようなことを訴えた者がありました。すなわち「先生はこの子は知能が低いから、よい学校に入る可能性がないし、他の幼児の邪魔になるから、準備的なカリキュラムの一員に入れないと言われるが、本人は公立の小学校に入りたいと言つてはいるが、残つて皆と一緒にやりたうか」という相談が三人ありました。このように、心理的な面に注意する必要が生じて来ます。

しかもテストの内容の学習意欲をあげようとして、「頑張ればいい小学校に入れるから」とか、「なまければお友達が附属に入つてもお前はいれないんだ」などと言つて興味をおこせようとしがちですが、このような刺激は、非常に悪い結果をまねきます。特に入学

しそこなつた場合に悪い影響を与えております。神経質の主訴で教育相談にやつて来る幼児のなかには、家に帰つて親が積み木などをもつて来ただけでも顔色を変えて逃げ出す状態になつてゐるものもありました。この最もひどい例は、現在神奈川県の人で、専門学校を出た親でしたが、何等反省の色がなく、私の方で指導しても、ただ／＼いい学校にどうかして入れてしまいたいという気持ちで満ちていました。

以上、私の言つたことをまとめますと、幼稚園で小学校のための準備教育を行うのはよいが、小学校教育のためではなく小学校入学のための準備教育は、教育効果が極めて少ないから政策的に入学難を解消するのが理想的である。しかし、小学校の方でそれをきかずそれができない場合は、技術的に、先生や有識

者が父兄を指導することによつて、準備教育をしてまで入学難の学校に入れようとしなことが望ましい。もしこれらのことが、父兄の方でそれをきかず、それができない場合は、できるだけ弊害があらわれないように、行うこと、すなわち、過度に行わなければ、あまり弊害があらわれない。そして、その内容としてはテストは適当であり、そのやり方は保育中に行う方がすじが通つてゐるのであります。もし保育後にやる場合は、他の幼児との間の心理的なまさつに注意し、且つ、学習意欲をたかめようとして小学校の良否を言つたりしないことを述べたのであります。

人間が嬰兒から幼児へ、幼児から少年へと段々発達して行く間に、初めは見たり聞いたりする丈なのが、注意して見たり聞いたりするようになり、其の中に記憶の力が増すにつれ、較べたり判断することが出来るようになって来る。視聴の力や、記憶の力や、判断の力は夫々時期によつて厚薄があり、従つて知識の涵養には時期に伴つて之に順応した準備教育が施されなければならない。

二、幼稚園の立場から

柿 内 三 郎

私の此のシンポジウムで話をしろと御依頼を受けて何が此のシンポジウムの目的か解ら

ぬ儘に出席したのですが、今山下先生や村山先生の御話を拝聴して全く御同感で準備教育

本然の姿が明示された以上何も附け加える必要もないと思います。併し此処に立ちました機会に準備教育に対する私の考を少し申述べさして頂きます。

世の中に立つて独立独歩で進んで行く為には社会に対する一定の識見を持ち且つ何かの職業的能力を具える必要があります。此の職業教育を受ける前に持たなければならぬ知識を具える為に必要なのが準備教育であります。

人間が嬰兒から幼児へ、幼児から少年へと段々発達して行く間に、初めは見たり聞いたりする丈なのが、注意して見たり聞いたりするようになり、其の中に記憶の力が増すにつれ、較べたり判断することが出来るようになって来る。視聴の力や、記憶の力や、判断の力は夫々時期によつて厚薄があり、従つて知識の涵養には時期に伴つて之に順応した準備教育が施されなければならない。

勿論精神の発達は大脳組織の發育と、之を助長するに必要な環境の有無によつて異なるから凡ての同年令の人は同じ様な発達を遂げているとは言えないのであるが、一般には、三、四才の時には、三、四才に相当した準備

教育が、又五、六才の時には、五、六才に相當した準備教育が十二、三才の時には十二、三才に應じた準備教育が施さるべきである。而かも前の時期の準備教育が充分に施されていない内に、次の時期の準備教育を施すことは反つて精神の順調な発達を阻害し知識の正常な涵養を妨げることになる。

私は精神の発達に相當する様な準備教育が施されるのならば早期の教育に決して反対するものではない。寧ろ幾人かの人々が早く準備教育を終えて、専門的知識の拡大に努力することが文化の為に望ましいと思うのであるが精神の発達にそわないような教育を押し付けることは絶対によろしくない。

現今特殊の小学校には入学希望者が殺到するので親達は幼児を入学させる為に幼児の精神発達の程度を無視して色々の知識を付けようと努力している、之は眞の準備教育ではなく、特殊小学校入学競争準備の教育である。之は単に時間の空費である許りでなく、幼児に種々の悪影響をのこすのでよろしくない。

私は幼稚園時代の準備教育は身体の健康保持、素直な子供になる為の躰、物事を正確に視、聴き、考える觀察力の養成の三者に尽き

と思う。

一、身体の健康保持が脳の正常的發育に必要ことは申す迄もない。之には偏食を戒め睡眠を充分にし、気分を快活に保たせなければならぬ。

二、素直な子供になるための躰は知識の発達の上にも重要な要素である。小さい時から独立的な考え方を助成するのは必要であるが、之と同時に嬌慢な気持を押えるため謙讓な心を持つ素直な子供にするような躰が大切である。嬌慢な気持がなければ凡ての場合に与えられる知識を素直に受け入れることが出来、従つて判断力の発達にも役に立つ。

三、健康な身体を持ち、素直な躰を受けた幼児は物事に就て正確に視、正確に聴き、正確に考えるように觀察力養成の機会が与えられれば知識は順調に発達するので、その他の準備は不要である。

以上の準備教育の三要素は幼稚園入園以前極端に言えば生後第一日から両親によつて育成されなければならぬもので、幼稚園は単に家庭の延長として之を助成するに過ぎない。

近時幼児の母親の中には幼児を特殊の小学校に入学させようとして心配し、教力所の教

育相談所を次々に歴訪して知能検査を受けたり、十月、十一月頃、中には夫より以前から眼の色を変えて焦り出すことを見聞するが、之は全く幼児のために迷惑千万のことである。この様な母親の子供は全く教育に無關心な母親の子供と同様に、希望する小学校に入れないで終わることが多い。之は精神の発達に副わない教育が無効であるばかりでなく、親の焦慮が子供にも反映し入学考査時に不安な態度で臨むからである。私は嘗て長男が小学校を終えて、中学校の入学考査を受ける前に、その学校には入学希望者が多いから、若しお前より良く出来る人があつたらその人に入学して貰う方が、世の中のためになる、お前は下稚小僧になつてもよいではないか、と言つたことがあつた。こんな場合に若し子供が入学出来なくつても、自分が能力がないから入学出来ないのではなく、自分よりもよく出来る人があつたから入学出来ないのだと思えば落胆することもなく、又努力することにもなると思つたからである。

現今小学校入学競争のための準備で多数の幼児が苦しめられているようでありますが、之は教育の何事であるかを理解しない親の犠

性になつてゐるもので、之を避けるためには先ず両親を教育しなければなりません。私は三十四、五年前東大の教授になりました時から毎月学生と修養の集りを催しましたが、十二、三年を経過した頃漸く、高等学校を卒業し性格が出来上つてゐる大学生に説くよりも、十二、三才までに確りとした性格を作り上げるように幼児を教育することが大切であることを悟り四十八才の時から大学停年退職後に幼児教育に携わることを決心いたしました。併し幼稚園で幼児に接するようになりますと同時に両親が先ず教育されてなければならぬことを知り、只今ではよく教育された祖父母によつて導かれた両親によつて初めてその子供が立派に教育される、即ち教育には三代の時日を要するとさえ思うようになりました。この意味に於ては準備教育は三代かかるということになります。御清聴を感謝いたします。

三、小学校の立場から

滑 川 道 夫

私立小学校の一般に通じるものとして、將來大学に入つても十分に学習出来る能力を持つ子供を入れることになる。

小学校教育のための準備教育は生活指導としての意味で必要であるが入学のための準備教育はやめてもらいたい。

上の学校に入るための段階的な生活準備教育は行うべきである。

生活の態度、基礎的生活習慣の養成が本来

四、児童学の立場から

平 井 信 義

問題は小学校の受け入れ方にあると思ひます。選衡の方法が、単に智能テストではない、性質のよさとか、育て方のよさとかを充分考慮されていれば、智能テストに狂奔するようなことはなくなるでしょう。むしろ育て

方から云えば、智能テストに夢になる親に問題があるわけで、減点の材料にされてはいかがでしょうか。智能テストを練習してきたものかどうかは、テストが熟練者であればじきに見分けがつくものです。練習して来た

問題は当意即妙ですが、それに一寸変化を与えてやり直させるともう詰つてしまします。

兎に角、人間の価値を智能テストで決めることは、誠にナンセンスでもあり、小学校としてもブライドをもつて、少くともそんなもので選衡の総てを行つてはいないということ

を、親たちに示して欲しいと思います。

テストを保育のカリキュラムの中に入れるということの良否についてはよく分りませんが、試験を目ざしてのものであれば、矢張り問題だと思ひます。人間のすることでありますから、その処理の仕方がまずければ、子供の、或いは親の競争心をよび起すことになりましょう。人をおとしめて、自分だけのびよう、とする気持ちが養われるとすれば問題でありましょう。その点では既に、準備教育（試験勉強）に狂奔しているお母さんの心の中には、自分のところはしていない、という顔をしていて、他の子供たちを出し抜こうとしている人もあるのです。

親の強制によつて、子供がどの様に被害をうけているか、二学期の終り頃になりますと顔色が悪くなつた、食欲が進まないなどの訴えで見えることが多くなり、補修教育をうけ

ているということを書いて、成程と思われれます。その際、少し勉強をやめたら、という、母親はつい分うらめしそうな顔をしております。その他、頻尿、どもり、嘔吐症のけいけんがあります。或いは妙なくせの始まつた子供もあります。勿論勉強を止めさせてなかつたのであります。こうした点、まだはつきりした研究がありませんので、今後の研究といひましよう。

最後に一つ、幼稚園で補修教育を行つてい

五、幼年教育の立場から

まずまず準備教育が、幼稚園その他の幼児教育の世界にはいりこんできている。その実状について、一々あげることではここではひかえるが、なぜ、こういう状態が生れてきたかについては、二、三のことを云つておかななくてはならないと思う。

原因の第一は、就職という狭い門がますます狭くなつてきていることについての不安、人間はだれでもその人間にふさわしい社会的

るのはどんなものでしょうか。先生としてもその幼稚園から沢山名のある学校へ入つてくれることはうれしいことでもありましようが、それがもし営業政策と結びつくとすれば、或いはついているとすれば、教育者としては誠に情ない氣持がします。殊に幼児教育の重要性が認められ、私共これから大いに切に努力している矢先、それにしみのつく様なことがあつてはと心配いたします。

周 郷 博

位置をあたえらるべきで、たんに就職（金銭収入）ということだけでなく、社会的な自分

る最大の原因であらうと思われる。

第二に、社会の人だと、父母たちが、現存の（或いはこれまでの）教育機関——小学校から大学までをもとにしての教育を考えている。それ以外に、又はそれ以上に、教育とは

どんなことをいくら考えてみているはずなのに、それは意識にのぼつてこない、多忙と過労によつて、ただただ大きなもの（現存のもの）に巻かれていつてしまつてゐる。よき明日への人間の成長を助けるという意味の教育を考えている余裕がない。必要な社会理論と児童理論をもつ余裕がないと云いかえてもよい。

第三には、幼稚園その他の施設を直接うかしていつてゐる園長や教師が、しばしば前にあげたとおなじような、古い或いは甘い表面的な教育の見方をしていることがあり、そのために父母の要求に従つて、上級学校への準備教育をこの幼児の世界まで導入してしまふ結果になつてゐるからである。

準備教育がどの年令に於ても排斥すべきだといふ暴論には、にわかに賛成しがたい。準備教育がいくらかでも価値がある場合は、準備教育は準備教育として行われてよい。けれど

も幼児の世界にまで今はいりこんできてゐる準備教育は、けつして、価値のある教育ではない。害の方が大部分だといえる。

現存の教育機構はたしかに教育として、大なる役割を果している。がまたそれは、現存の社会の悪を反映してできている教育の機構でもある。その現存の社会に、ただただ合せた教育を、まだ幼い未分化なあらゆる可能性をもち、芽をだし葉をひろげたばかりの幼い人々にまで及ぼして、型にはめ、知性が身体的なものによつて訓練され、成長するはずなのに、伸びるべき芽を枯らして幼少な時代に偽善者にする。これは教育のために人間を殺すということに近い。

これは、機械時代における教育の悲劇であると云える。そこで一つには、私たちは幼児の身体と心の発達にかんする、最近の研究をよくきわめ、じかに観察し実験して、それらの研究をたしかめ、新しい正しい児童観（幼児観）をつかみ、この重要な教育を上からの支配から救わなくてはならない。がまた同時に、最近の心理学の教えるところに従つて、積極的に小学校の低学年、二年までを、満七才までを含めて人間の教育のために新たな教

育体系と、その教育の内容方法——カリキュラムの基本的な拠りどころを確立しなくてはならない。

機械時代をつくりだして、世界の歴史を近代の方向へとうごかし、さらにその機械時代のつぎに来るべき時代のために、重要な役割をはたすように活動しているとみてよい、イギリスの幼年教育の建て方に、学ぶことが必要だと思われる。

これは、幼児教育という部分的な問題でなく、これからの日本の社会の未来像を含んだ全般的な教育改造の礎をきづいていく仕事であり、勇気を要する仕事だと思われる。

×

×

×

×

日本保育学会記事

保育の理論的な発展を所期するため昭和二十三年創立された日本保育学会は、本年は第六回の大会を迎えた。

一、第六回大会

第六回大会は、昭和二十八年五月三十一日（日曜）午前九時より午後五時まで、日本女子大学講堂（東京都文京区高田豊川町）で開催された。そのプログラムは次のようである。

プログラム

開会の辞 会長 倉橋惣三
 第一部 研究発表 午前九時半—午後〇時半
 午後二時—三時

（○印は共同研究における報告者）

一、絵本に対する五六才児の興味
 日本女子大学 奥野あや子

○前田美和

二、乳幼児の発達段階に伴う保育方法についての一考察
 西南学院 短期大学 高橋さやか

三、幼稚園の道徳教育
 東京学芸大学 稲毛卓

四、幼児の発育の季節
 お茶の水女子大学 ○平井信義

的變動について
 干羽喜代子

—(1)幼稚園児—
 野田幸江

（一—四、座長 児玉省）

五、知能検査としての指テスト (Finger Test) の検討
 愛知学芸大学 種橋正徳
 浅井保育園 市野崎とし子

六、遊戯におけるフラストレーションの表現

日本女子大学 児玉省

七、幼児のことば——語彙の実態調査——

名古屋市立保育短期大学 齋藤愛子

八、排便排尿の騷(トイレット・トレーニング)の調査

名古屋市立保育短期大学 渡辺紀久子

〔五—八、座長

小川正通〕白木・桜井

九、幼児の生活慣習の早期樹立について

江東橋保育園 鈴木とく

一〇、要求の心理から見た保育用品

愛知県立女子短期大学 江上秀雄

一一、音遊び

大阪基督教短期大学 小木曾光

〔九—一一、座長 莊司雅子〕

一二、幼児の相談事例について

愛育研究所 竹田俊雄

一三、年令別にみた乳歯ムシバ罹患程度

保育医学研究会 深田英朗

一四、両親から見た理想の保育者

頤榮短期大学 西本脩

一五、子供は両親に何を与えるか——ボツサートの研究を中心として——

大阪学芸大学 小川正通

一六、私立幼稚園の健康管理の形態 栄光幼稚園 日名子太郎

〔二—一六、座長 上村哲弥〕

第二部 総会 午後一時半—二時 (別掲)
第三部 シンポジウム 午後三時—五時

「幼児保育と準備教育」

一、幼児教育のカリキュラムの立場から 司会 山下俊郎

二、幼稚園の立場から 日本女子大学 村山貞雄

三、小学校の立場から 音羽幼稚園 柿内三郎

四、児童学の立場から 成蹊小学校 滑川道夫

五、幼年教育の立場から 愛育研究所 平井信義

お茶の水女子大学 周郷博

閉会の辞 (代読) 副会長 根岸草笛

来会者はおよそ六五〇名、北は北海道より南は鹿児島にいたる全国各地より参集し会場に満ちあふれた盛会であつた。

北海道 一〇 関東(除東京) 八三

東京 四二二 中部 五七

近畿 六〇 中国 一四

九州 九

なお、第三部をはじめる前に会場校学長大橋広氏の挨拶があり、また本大会を開催するにあたっては、会場校の児玉省委員をはじめ、上村、村山両委員、児童研究所、幼稚園職員および学生多数が大いに尽力された。

二、総 会

昭和二十八年年度の通常総会は、右大会の第二部として開催され、倉橋会長を議長として議事が進められ、次のことが承認あるいは決定された。

一、昭和二十七年年度事業報告

(報告) 常任委員 竹 田 俊 雄
(報告) 会計報告 (別掲)

二、同
(報告) 常任委員 村 山 貞 雄
(報告) 常任委員 竹 田 俊 雄

三、昭和二十八年年度事業計画
(説明) 常任委員 竹 田 俊 雄
(説明) 常任委員 村 山 貞 雄
第六回大会開催、会報発行、研究会開催
共同研究実施等

四、同 予算 (別掲)

(説明) 常任委員 村 山 貞 雄
五、役 員 改 選

別項の如く決定、(会長、副会長、常任委員、会計監査は大会後の委員会において決定)

六、第七回大会開催

昭和28年度予算

収入

1. 前年度より繰越金	34,768円83銭
2. 会 費	35,000円
3. 編 集 費	20,000円
収入合計	89,768円83銭

支出

1. 人 件 費	2,000円
2. 事 業 費	
第六回大会事業費	25,000円
第七回大会準備費	20,000円
共同研究費	20,000円
研究会費	5,250円
会 報 費	15,000円
委員会・常任委員会費	1,000円
交通・通信費	1,000円
3. 雑 費	518円83銭
支出合計	89,768円83銭

昭和27年度会計報告

収入

1. 前年度より繰越金	24,822円96銭
2. 会 費	25,900円
3. 編 集 費	20,000円
4. 利 子	276円87銭
収入合計	70,999円83銭

支出

1. 人 件 費	2,000円
2. 事 業 費	
大会事業費	32,770円
委員会・常任委員会費	1,126円
交通・通信費	130円
3. 雑 費	205円

支出合計 36,231円
差引残高 34,768円83銭

昭和二十九年五月神戸において開催と決定

三、その他の活動

一、大会研究発表報告誌の発行

第五回大会研究発表報告誌は「幼児の教育」第五十一巻第九号（昭和二十七年九月）に特集の形で発行された。

二、会報の発行

昭和二十八年五月、「日本保育学会々報第二号」を発行した。この印刷はフレール館の好意によるものである。

三、共同研究

昭和二十八年年度の共同研究は五月三十一日の委員会において左の二題目について行われることとなつた。

(イ) 健康管理の実際に関する調査

(ロ) 日本の幼児の発達規準

日本保育学会事務局

東京都港区盛岡町
愛育研究所内

役員

会長 倉橋惣三 (昭和二十七年五月選任)
副会長 小川正通
山下俊郎

委員 (〇印常任委員)

秋田 美子 〇及川 ふみ 大島 文義
大西 憲明 岡田 志げの 〇小川 正通
上村 哲弥 城戸 幡太郎 〇倉橋 惣三

〇児 齋藤 文雄 省
〇資 津 雅子
〇莊 司 雅
〇周 郷 博
〇鈴 木 信 政
〇鈴 木 信 政
〇副 島 俊 政
〇竹 田 善 政
〇玉 川 三 政
〇根 越 三 政
〇波 岸 草 政
〇平 多 野 完 治
〇古 井 弘 信 治
〇堀 木 弘 信 治
〇松 村 康 弘 信 治
〇三 木 安 弘 信 治
〇宮 内 貞 要
〇森 山 貞 要
〇守 屋 光 雄
〇山 崎 光 雄
〇山 下 俊 郎
〇横 田 榮 三
〇吉 見 静 江
〇牛 島 義 友

「幼児の教育」九月号の

定価について

「幼児の教育」九月号は、日本保育学会第六回大会の特集号と致し、本大会の研究発表と記録を掲載致しました。このため本誌毎月の定頁(五二頁)を超過し、八六頁となりましたため、増頁に伴う臨時定価を六拾円とさせて頂きました。御諒承願います。

日本幼稚園協会

幼児の教育 第三巻 第九号

定価 金六十円

昭和二十八年九月一日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集者 倉橋 惣三

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレール館

振替口座東京一九六四〇番

〇本誌御購読について注文申込その他はすべて発売所フレール館宛願います

山下俊郎著 (最高權威書)

A 5 上製函入
価 五二〇円

改訂 幼児心理学

最新刊

本書は現代児童心理学の成果を育児の実際に適用したる著者多年の実験の結果を学的体系の下にまとめた斯学最優良図書である。

山下俊郎著

(改訂版)

幼児の心理的発達

B 6 上製
二〇〇円

副島ハマ著

(三版)

幼児の絵画と製作

B 6 上製
二二〇円

上澤謙二著

(再版)

幼児のお話教育

B 6 上製
一八〇円

酒田富治著

(再版)

幼児の音楽教育

B 6 上製
一八〇円

牛島義友著 (好評)

A 5 上製函入
価 五五〇円

小学生の心理

全国の教員・父兄・心理学徒必読の書

日本図書館協会選定図書
全国学校図書館協議会選定

(最高權威書)

東京 神田 保町二 岩松堂書店

東京 東 5 5 6 替振 6

発売

お茶の水女子大学名誉教授

倉橋惣三先生著

幼稚園眞諦

B 6 判一四六頁 定価一八〇円

幼稚園保育の眞の在り方を、平明な説き方によつて講じられたもので、幼稚園の理解と再考究とのために、必読の書であります。

東京学芸大学附属幼稚園教諭
東京学芸大学附属小学校教諭

安藤寿美江先生 共著
渡辺 茂先生

幼児のための たのしいたとリズム

A 4 判六四頁
予価二五〇円

学芸大学において、直接保育に当たられている両先生が、多年にわたる豊富な保育経験から生み出したもので、どれもこれも、きれいなうたばかりです。

賀来琢磨先生著

実用 動きのリズム

第一集 B 5 判七六頁
改訂版 定価二三〇円

先に発行して大変皆様方の御好評をいただきました賀来先生の実用保育遊戲の改訂版です。賀来先生は、キンダーブックで振付を担当されており又斯界での权威です。

發行所

株式会社

フレール館

東京都千代田区神田小川町二ノ五

10 月 号 予 告

観
察

キンダーブック

絵
本

KINDER-BOOK

第 8 集

【おいしいなあ】

第 7 編

☆お子さま方の感情と知識の

成育のために古く広く好評の高い本☆



A 4判16頁・月一回発行
解説 8 円
定価 45 円・送料 8 円 付

「おいしいな」

日本の秋は、青空と光りと、風の季節です。心は澄み、からだはおのずとすこやかになるので、昔のひとは「天高く馬肥ゆる秋」といつた。じつさいこの季節には食欲がさかんとなり、何を食べてもおいしいものです。

ことに秋の風物がもたらす、松たけ、しめじのような香り高きもの、この山の幸、ぶどう、りんご、くり、かきの如き果物のゆたかさ——形、色とりどり、こんな自然のおくりものに恵まれた私たちは、幸福といわなければなりません。

発行所 株式会社 フレーベル館 振替口座東京 一九六四〇番
東京都千代田区神田 小川町二丁目五番地